

STAR WARS
THE ORIGINAL TRILOGY LIGHTSABER GUIDEBOOK

**ORIGINAL ENGLISH VERSION
WRITTEN AND DESIGNED BY
SETH M. SHERWOOD**

全ての写真及び画像の著作権はその所有者にあります。
クレジット掲載を希望する際は Replica Props Forum の
“Seth S” に Private Message を送ってください。(要英語)

販売・印刷は厳禁です

電子媒体での配布・共有は
自由に行って頂いて結構です

表紙 CG: ROY GISLING
日本語版翻訳責: びろいし
(Japanese translator: gullwing)

**バージョン:2.0
2017年2月**

(改訂履歴は最終ページに記載)

謝辞

何よりもまず最初に言うべきことは、私は“著者”としてこのバイブルに名を記してはいますが、元々の情報の提供者というわけではないということです。私はランチセーバーのテクスチャテープを突き止めた事以外はなんの調査もしていません。既知の情報を簡単に参照できるように一つにまとめただけのことなのです。全てのディテールや寸法、様々なパーツの素性などは、the Replica Props Forum(RPF)メンバーのたゆまぬ苦心と努力によって得られたものです。

数多くのメンバーによって発見され、測定され、調査され、複製することで判明した無数のピースを選別し、ここにまとめました。彼らの懸命な働きによる成果です。私がすっかり忘れてしまう前に重要な人たちの紹介をしておきたいと思います。James Kenobi 1138, thd9791, veektohr, PoopaPapaPalps, Kurtyboy, Halliwax, teecroozそして Serenity——特に彼らは長い時間をかけて真の調査と研究を行い、意見の相違を修正するために私と議論を続けてくれました。

Chaim/Sym-Cha には特に感謝を述べたいです。彼はライトセーバーに関する真の記録者で、その画像コレクションは深い洞察を可能にしてくれました。このバイブルの中にある、スクリーンキャプチャ以外の画像はたいがい彼から提供されたものです。また、彼が指摘してくれたことですが、ルーカスフィルムとジョージ・ルーカスにもあらゆる感謝を述べなくてはなりません。

また、Roy Gilsing (wannawanga.com)と Roman Gomez (romanprops.com) がセーバーの部品や構成を忠実に再現することで多くの情報がもたらされたことにも感謝します。その製作過程は単にレプリカを作成する方法を探るだ

けではなく、セーバーのルーツに本質的に迫ることにつながりました。

partsofsw.com は、インターネットが HTML やダクトテープに頼らず動くようになって以来更新されてはいませんが、多くのセーバーコレクターやビルダーの出発点でした。多くが古くなってはいるものの、よく知られているような基本的な情報は今でもこのサイトで得ることができます。このガイドと同じように、色々な情報を一ヶ所にまとめてくれているのです。Chris Trevas と Chris Reiff は AOL や Geocities といったサービスを使い、今となっては驚くほど低解像度の画像しか使えない時代にこれを成し遂げてくれました。

また、Brage Borgsø の手による the graflexbank.com は Graflex ベースのセーバーの近年の情報を集約しており、多くの時間を節約してくれました。彼の成果の多くがこのガイドで紹介されています。

推測を徹底的に排除するために、特に明記しない限りはすべての画像は本編映像か、宣伝用の素材か、実物プロップであると確認された写真から得ています。すべての写真の権利は所有者にあります。すでにインターネット上に写真は出回っています。もしこの文書中で使われている写真にクレジットを希望される場合はお知らせください。

最後に、正確な記述を心がけていますが、いまだにいくつかの謎が残っています。人々の研究と同意を基にはいますが、厳密には推測と言える情報も多々あります。時折、新たな発見によって定説が覆ることがあります。

以上ご留意の上お読みください。



目次

謝辞	2
序文	4
The Skywalker Lightsaber	5
A New Hope - Hero	7
A New Hope - Stunt	9
Holiday Special - Hero	10
Empire Strikes Back - Hero (Bespin / Hoth)	11
Empire Strikes Back - Hero (Dagobah)	13
Empire Strikes Back - Stunt	14
Empire Strikes Back - Stunt (Severed Hand)	15
Empire Strikes Back - The Ranch Saber	16
Empire Strikes Back - Kurtz Sabers	17
The Force Awakens - Hero (Rey / Finn)	18
The Force Awakens - Hero (Maz Box)	19
The Force Awakens - Stunts	20
The Force Awakens - Display Variants (Launch Bay, V.D.)	22
Darth Vader's Lightsaber	23
A New Hope - Hero (Silver Bars)	24
A New Hope - Hero (Black Bars)	25
A New Hope - Stunt	26
A New Hope - Promotional Kobold	27
Empire Strikes Back - Hero	28
Empire Strikes Back - Stunt	30
Return of the Jedi - Hero	31
Return of the Jedi - Stunt (MOM)	32
Return of the Jedi - Stunt (MPP)	33
Return of the Jedi - Stunt (Severed Hand)	34
Return of the Jedi - Kurtz Saber	35
Return of the Jedi - Promotional Variants (Barbican Bunny)	36
Obi-Wan Kenobi's Lightsaber	37
A New Hope - Hero	38
A New Hope - Stunts	39

Luke Skywalker's Jedi Lightsaber	40
Return of the Jedi - Hero (V2)	41
Return of the Jedi - Stunt (Shared Stunt/V3)	43
Return of the Jedi - Stunt (Yuma / R2)	44
Return of the Jedi - Close-Up ("Hero") (ISYHCANL, Cave Build)	45
Revenge of the Syth	46
参考画像集	47
付録	
Real world parts	52
Clamp card guide	53
改訂履歴	54



序文

このガイドは、旧三部作を基本とするライトセーバーのプロップ（小道具）がどのようにデザインされたのか、その理由や起源を明らかにし、個々の部品を掘り下げ、再現複製しようとするあなた方の手助けとなるべく作成されました。

脚本的に考えるならば、旧三部作にはスカイウォーカーのライトセーバー、ダース・ベイダーのライトセーバー、オビ=ワン・ケノービのライトセーバー、そしてジェダイとなったルーク・スカイウォーカーのライトセーバーの4本しか登場していません。

物語中のこれらの4本のライトセーバーには、実際には40以上もの異なったバリエーションがあるのです。なぜこのようなことになったのでしょうか？

それぞれのプロップにはそれぞれの違った使用目的があるからです。“ヒーロー(hero)”や“ベルトハンガー(belt-hanger)”と呼ばれるタイプのセーバーはカメラに詳細に撮影されるためにあります。スタントセーバーはその名の通り殺陣に使われたり、投げたり、スタントマンが落下したりジャンプしたりする間にベルトに装着するためにあります。“gag”(*) プロップと呼ばれるものもあり、リハーサルやカメラテストのために使われます。

プロップのことを調べる際に、常に考慮すべき点が2つあります。

第一に、映画撮影においては常に早く、安く、が求められるということです。プロップ愛好家は逸品を作り上げるために時間とお金に糸目をつけませんが、実際の製作においては、可能ならばなんでも一緒にたにするのはよくあることでした。旧三部作の時代においては、これらの違いは、客には見えていない些細なものとされました。かつては高解像度の映像をいつでも一時停止して詳細を調べるなんてことは一般人には不可能だったのです。

第二に、常に複数の品が作られるということです。プロップは破損したり、置き忘れたり、2つの異なる場所で必要になることがあります。どこぞのキレたプロデューサーに持ち去られ、後に240000ドルでオークションにかけられることもあります。ポイントは、1つのプロップには、3連や5連の品でないのならば、必ず対があるということです。このこ

とと第一のルールとを合わせて考えると、これらは双子の兄弟であり、全くの同一品ではないと言えます。同じ使い方をするために複製されたプロップは、それぞれに軽微な違いがあります。こういった違いが何らかの形で示される度に、プロップ勢は混沌状態に陥り、それがどこで使用された可能性があるものなのか特定しようと躍起になります。制作が終了した後に、宣伝用にプロップが作られることもあります。

最後に、私はここでは“旧三部作”のライトセーバーを取り上げます。新三部作のライトセーバーにはそれほど混乱するような系譜はありません。それらは社内で1から設計制作されました。現実世界に散在するパーツを求めてゴミ漁りをする必要はありません。続編三部作(Graflex 余話)についても、カイロ・レンのセーバーに見て取れるように、社内製作の道を辿っているようです。カメラの部品や軍事廃材から作られた時代は残念ながら過去のものです。

しかし感謝すべきことに、スターウォーズという作品と同じく、旧三部作ライトセーバーは不滅なのです…。

訳者注※ 即席、場当たりの意





THE SKYWALKER LIGHTSABER

最初にこのライトセーバーのプロップが作られ、スクリーンに登場して以来、無数のファンを虜にしてきました。このスカイウォーカーのライトセーバーこそ映画史において最も象徴的なプロップであることに間違いはないでしょう。

元となった品の現実世界での名前そのままに「グラフィックス」とも呼ばれ、最も想像力を掻き立てる品ですが、ebay オークションでの価格は目もくらむような額となっています。

THE SKYWALKER LIGHTSABER A NEW HOPE - HERO

(別名: *The Graflex* 又は *Luke ANH*)

この一本から全てが始まりました。A New Hope—“新たなる希望”におけるプロップ及び撮影セット製作担当のロジャー・クリスチャンが制作し、かつてルークの父親が所持していたものとして、オビワンからルークに手渡されたライトセーバーです。

クリスチャンは異世界や特別な雰囲気を感じさせるライトセーバーの柄を探し出すのに苦労したと述べています。ラルフ・マクオーリーが提示した、シンプルな円筒形のデザインはしっかり来ませんでした。ルーカスは最終的にクリスチャンが提示したものを気に入って、ヒーロープロップに採用しました。

グラフィックスは年代物のカメラ用のフラッシュで、3本の電池を用い、4x5大判カメラの側面に装着されるものでした。独特の形状と、特許番号あるいはGraflexの会社名が入った底面の刻印によって簡単に見分けことができます。ANHにおいては底面が不鮮明なため、いくつかあるモデルの内、どれが使われたのかはわかりません。グラスアイの形状からFolmerタイプではないかとされています。

その他プロップの一部としてのこのフラッシュの基本的な特徴は次のようなものです。

- ・“レッドボタン”と呼ばれる背面の赤い作動ボタン
- ・“バニーイヤー”と呼ばれる電球バルブのホルダー
- ・スライド式電源スイッチ
- ・“グラスアイ”と呼ばれる前面のプレビューランプ
- ・“ピアタブ”と呼ばれる、緩めた作動ボタンが脱落しないように背面に固定されている金具

プロップとして完成させるために以下のパーツが追加されました。

・底面の一般的なDリング（1本のリベットで留められている可能性が高いです）

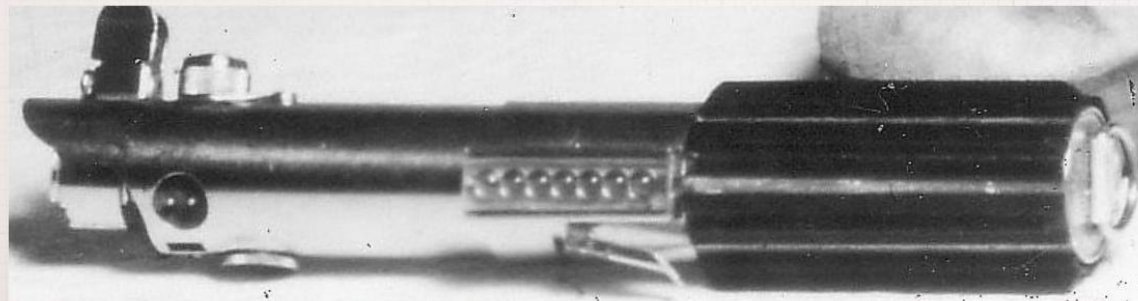
・中央のクランプにテキサス・インスツルメンツ製LED計算機Exactra 19もしくはExactra 20の画面拡大用バブルレンズが差し込まれています

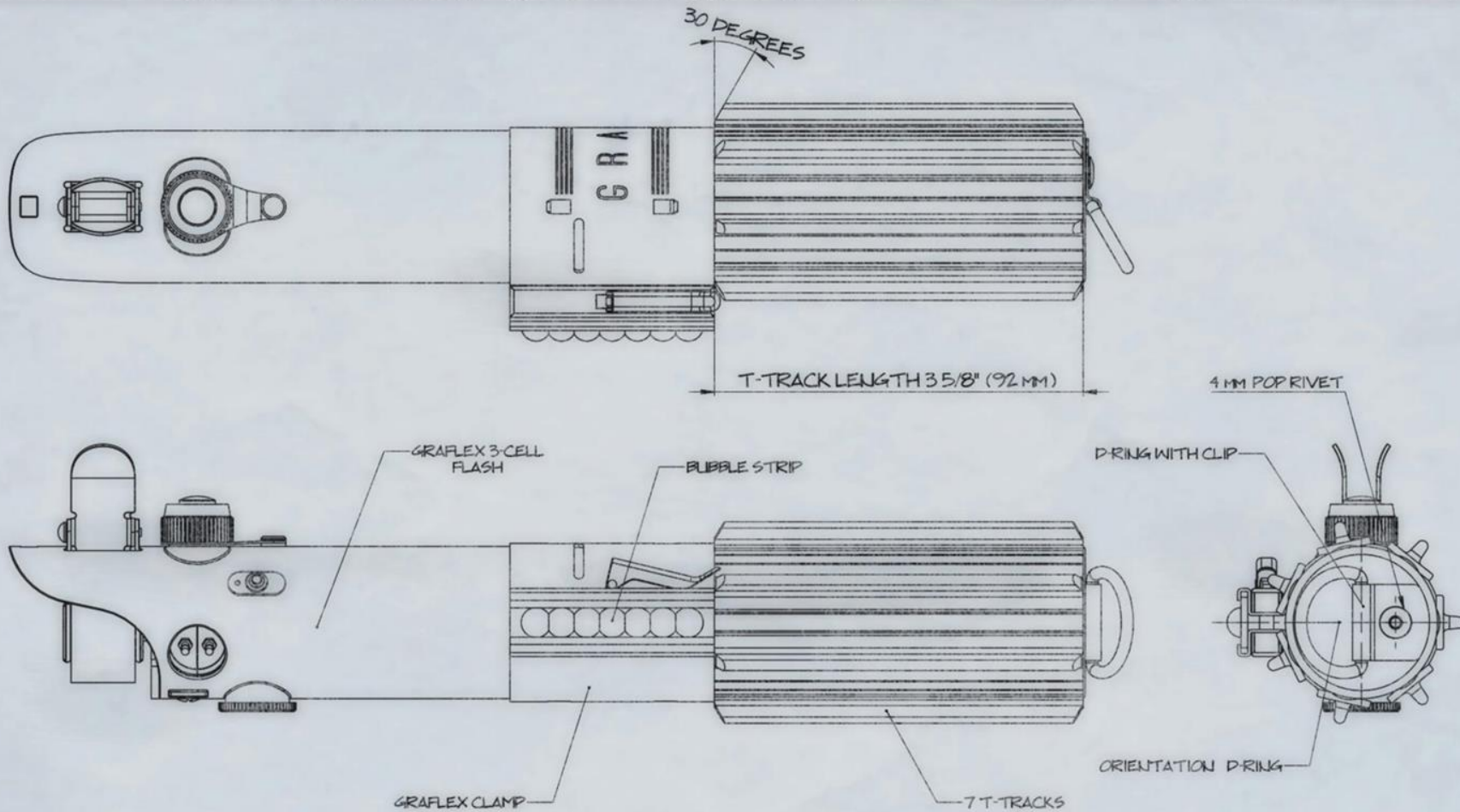
・7本の“T-トラック”と呼ばれる帯状部品がグリップとして取り付けられています。3 5/8インチの長さで、両端は30°に面取りがされています。

T-トラックの素性は明らかになっていませんが、同じものが他の複数のセーバーでも使われています。ロジャー・クリスチャンの主張はこのパーツについては一貫していません。多くの人は戸棚のドアや窓をスライドさせるガイドレールであったという彼の昔話に賛同していますが、クリスチャンは窓の隙間風をふさぐ部品だったとも言っています。

T-トラックの外形や高さについても、見方によって様々であるため、議論は続いています。検証ソースによって硬質プラスチック製、ゴム製、金属製と様々に意見が別れます。

追記：正確に映画の再現を目指す場合、すべての部品はANHの全シーンで一貫して装着されてはいますが、英国で撮影されたシーン、米国で撮影されたシーン、プロモーション撮影のそれぞれでクランプの配置が異なることに注意してください。プロモ撮影ではクランプは3時の方向にあります。映画の中で最もよく見られるのは、底面から見て9時の方向にクランプがあり、12時の方向にバニーイヤーがあるものです。





20 CENTURY FOX LTD.						PROD. N°
THE STAR WARS						E76/1
SET LUKE ANH LIGHTSABER						SET. N°
DETAILS						SCALE
						1:1
DRAWN	Carps	Metal	Xy	Conct	X	DRG. N°
	Paint	SFX				542
DATE	Plaster					
18-6-76						

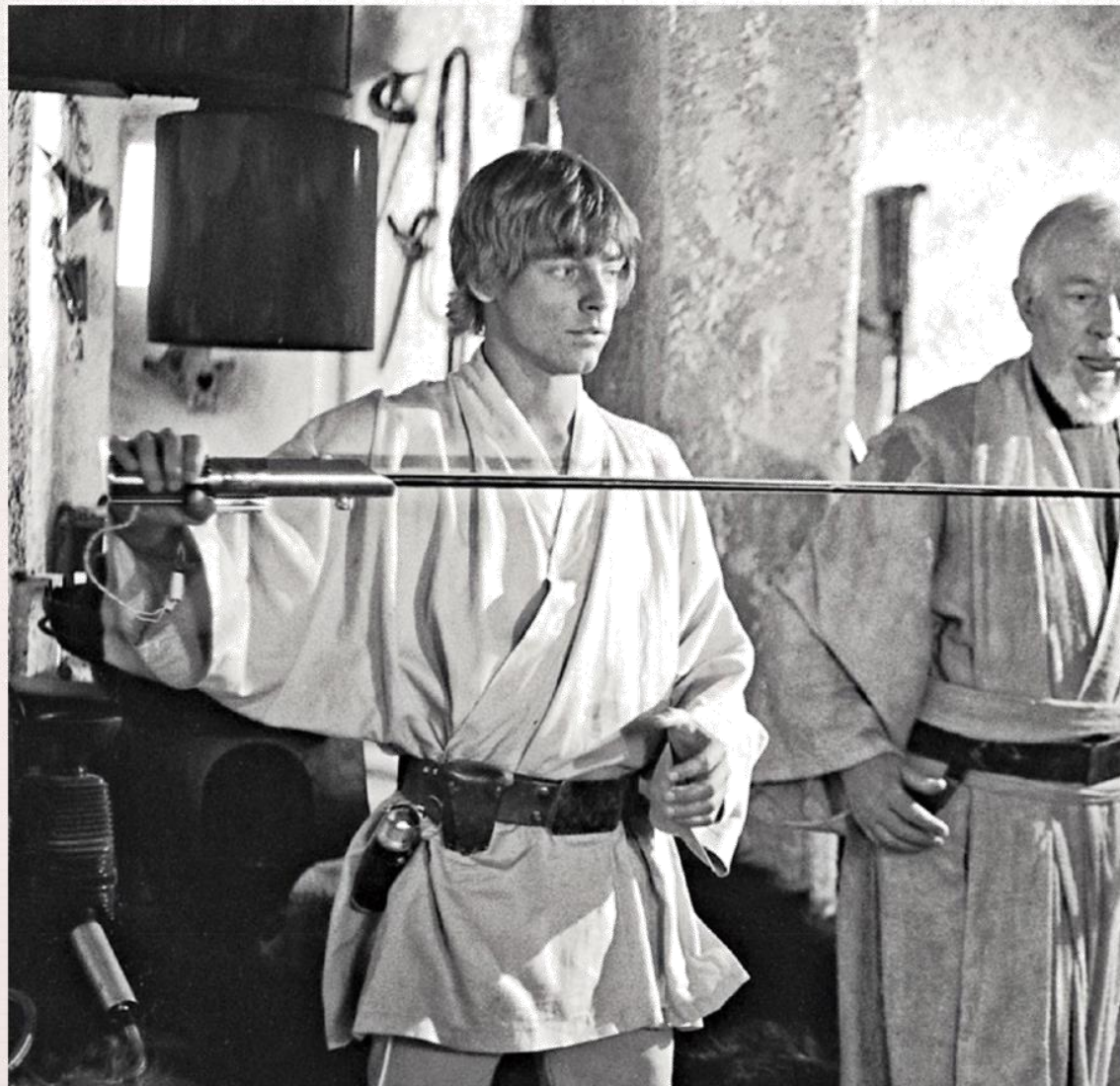
THE SKYWALKER LIGHTSABER A NEW HOPE - STUNT

(別名 : Luke/Vader Shared Stunt)

ライトセーバーの象徴的な輝く光刃を表現するために様々な方法が試されました。“新たなる希望”の撮影当初考え出された方法は、殺陣用の棒に、光を反射する映画のスクリーン用の素材を貼り付け、小さなモーターで回転させるというものでした。光を適切な方向から当てると、棒が脈打つように明滅するように見えます。

これを実現するために、大まかにグラフレックスに似せたシンプルなパイプを切り出し、中にモーターを仕込んだものが作られました。レッドボタンとガラスアイ、グリップとクランプも取り付けられましたが、パニーヤーはついていません。モーターは外部バッテリーで駆動しましたが、ルークが初めてセーバーを起動するシーンをはじめとして幾つかのシーンでは、バッテリーへのケーブルが袖口に見えています。柄の中心にある固いコアパーツが回転し、ブレードはコアパーツに固定されていました。

追記：このスタントセーバーは簡易的な塗装をされた後、ダース・ベイダーのスタントセーバーとしても使われているため、“Luke/Vader Shared Stunt”と呼ばれることもあります。また、リハーサル用のセーバーとして、“帝国の逆襲”や“ジェダイの帰還”の舞台裏でもその姿を見ることができます。



THE SKYWALKER LIGHTSABER HOLIDAY SPECIAL - HERO

ボーナスコンテンツ！

正史に位置づけられるものではないといえ、ホリデースペシャルは味のあるセーバーだと私達の誰もが認めるものです。それは壮大なプロップの物語を語るに必要な一部でもあります。このライトセーバーは1960年代のグラフィックス社の主な製品であるグラフィイト(Graflite)というカメラフラッシュをベースとして作られています。(オリジナルのグラフィックスは1940年代から60年代にかけて使われました)

グリップにT-トラックが使われていますが、残りの部品の正体は不明です。重要なのは、なぜプロップの姿は変遷していく傾向にあるのか、なぜこのセーバーが変わった姿をしているのかという疑問に対する答えが示す事実です。

“新たなる希望”はいろいろな意味で一度限りのものでした。制作スタジオはこの映画は失敗するだろうと予想していましたし、予算はこの種の映画としてはかなりの小規模でした。ほとんどの小道具は専門の業者から借りたもので、返却する必要がありました。ルークのライトセーバーも部品が取り外されて、カメラのフラッシュとしてレンタル業者の元に戻されたのです。

「レイダース 失われたアーク」と「帝国の逆襲」が制作されるまで、ルーカスフィルムには撮影に使った素材を保存すべきだという考えと、それを担うアーカイブ部門は存在しませんでした。故にホリデースペシャルでは小道具の幾つかを再制作しなくてはなりませんでしたが、以降もANHセーバーやその他のプロップの画像が世に出てこない理由なのです。それらはもはや存在しません。



THE SKYWALKER LIGHTSABER EMPIRE STRIKES BACK - HERO (ホス / ベスピン)

(別名 Luke ESB)

ありがたいことに、“帝国の逆襲”の制作チームは、ホリデースペシャルよりも少し頑張ってくれました。ルークのライトセーバーを再現することを目指し、同じパーツを使い、数カ所の小さい変化を加えつつ申し分ない復元をしてくださいました。幾つかの変更は、地球産の物に見えないようにという理想を目指して行われたようですが、実務的な理由で行われた箇所もありました。

原型と同じく、このセーバーはグラフィックスカメラフラッシュを基本としています。ワンパの洞窟でのクローズアップのおかげで、このモデルは“The Folmer Graflex Corp”と刻印され、特許番号が記されていないものということがわかります。(Folmer Graflex Corpは1946年にGraflex Inc.と社名を変え、これ以降の製品には特許番号が刻まれています)

このモデルのその他の注目すべき変更点：

- ・ガラスアイは2つ目のレッドボタンに置き換えられました。
- ・バブルレンズはプリント基板コネクタを切り取ったものに置き換えられました。これはHP-44バスタイプのコネクタと思われ、薄い銀の配線と金の端子を備えています。金の端子側がクランプレバーの方を向いています。
- ・“ピアタブ”は取り除かれています。
- ・1/2インチ幅の薄膜ポリエステル製クロームメッキテープ(Mylar/Chrome tape)がクランプに巻かれ、グラフィックスのロゴが隠されています。
- ・ベルトに吊り下げるための機構は、グラフィックスよりも小さな、コボルトというカメラフラッシュから取り外された部品とDリングによって作られ、2本のリベットで底面に取り付けられています。
- ・6本の“T-トラック”グリップがあり、両端は垂直です。
- ・小さなネジがクランプの溝におそらく装着されています。これはもともとグラフィックスにある特徴です。

グリップの取り付け方法に関しては今でも議論が進行中です。90年代まで、ライトセーバーの画像は宣伝用の写真で得るしかありませんでした。アートブックやビジュアルディクショナリーのようなものは存在しなかったのです。

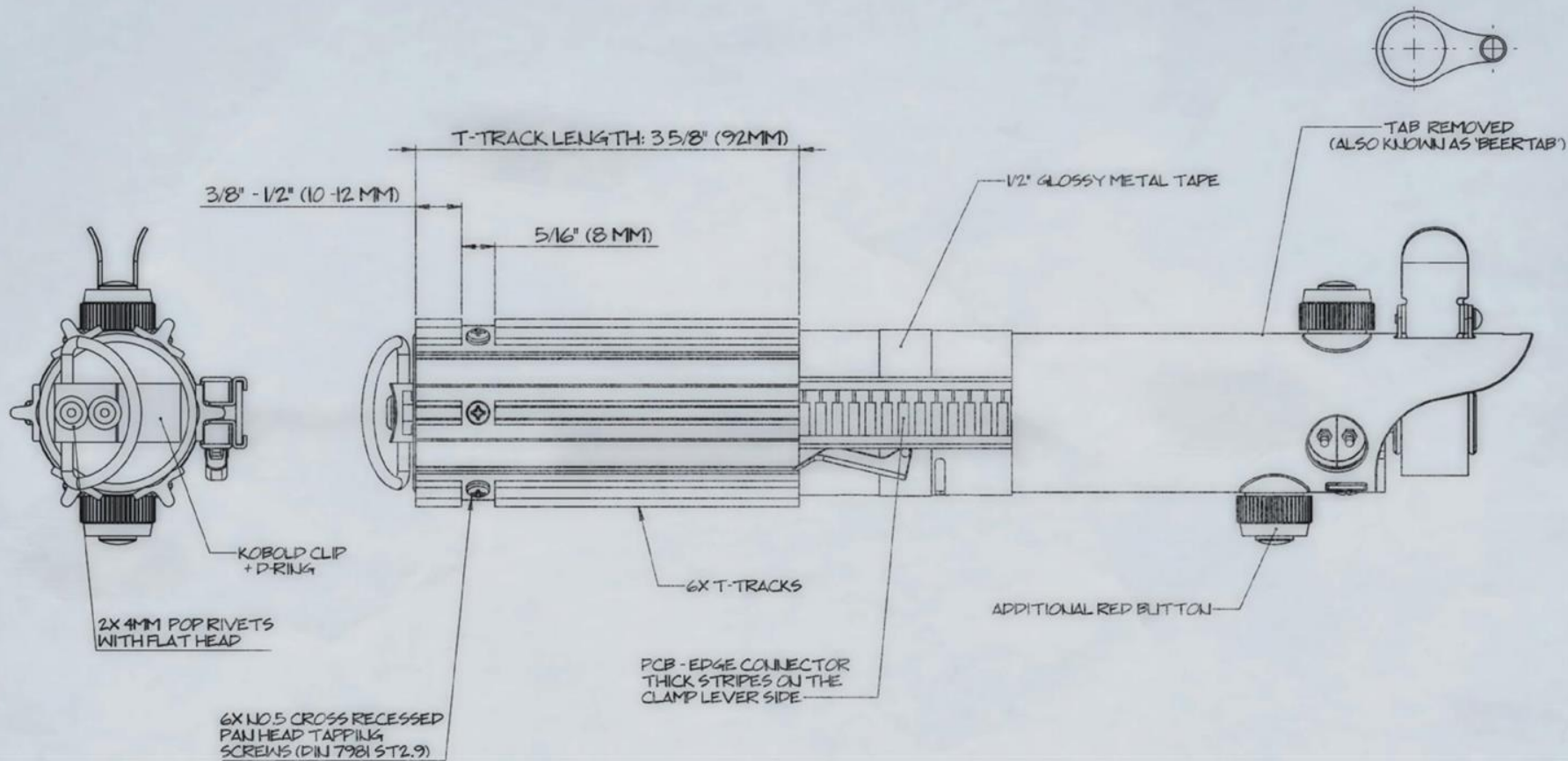
セーバーのまともな姿を提供しようとしてくれた最初の本は、シェーン・ジョンソン著のスターウォーズ・テクニカルジャーナル(1993)でした。彼はルーカスフィルムアーカイブの写真を参考にブループリントを描きましたが、グリップデザインにリベットを使用しました。映像からもコボルトDリングアセンブリに関してはリベットを使用していることがはっきりとわかっていたため、グリップもリベット留めであることが理にかなっているように思われました。1998年に彼の指揮によって最初のビジュアルディクショナリーが作られたため、初めて作られた公式のレプリカ製品たちにも、全てリベットが使われました。

しかしその後、スターウォーズはDVDとなり、HD化されBlu-rayにもなりました。実際にはリベットではなくネジが使われていたようです。これは今も議論の対象です。ネジであることに賛同する人でもなお、その色やサイズについて議論が続いています。結局今のところ黒にも銀色にも見え、はっきりしないため、映像上では十分な証拠は得られていません。

有力な説は、ホスの撮影の寒さの中では、T-トラックを固定するための接着剤が剥がれてしまうため、ボルトかネジかリベットで完全に固定したのではないかと、いうものです。繰り返になりますが、誰もそんな細かいところまでは見ないだろうと考えたのでしょう。銀色の部品が使われた可能性が高いですが、製作の時期によっては黒に塗られたり、黒いものに取り替えられたり、環境の変化によって酸化した可能性もあります。

追記: このセーバーの画像の一部では、各グリップの上部に小さなネジが存在します。これらはどの映像中においても見えるのか見えないのかははっきりせず、確認はとても難しいです。撮影後に追加された可能性もあると考えられています。





		PROD. N°				E76/1
		SET. N°				
LUKE ESB LIGHTSABER						SCALE
						1:1
DRAWN	Carps	Metal	Xx	Conct	X	DRG. N°
	Paint	SFX				543
DATE	25-79	Plaster				

THE SKYWALKER LIGHTSABER EMPIRE STRIKES BACK - HERO (ダゴバ)

ヒーローセーバーが何本存在していたかに関わらず、ルークがダゴバにたどり着いたときには、セーバーは明らかに大きく変化しています。おそらく、撮影場所や環境が変わったことや、プロップ担当者の単なるミスによって生じた不具合だと思われます。

ダゴバのシーンが最後に撮られたとするなら、撮影の初期に使われたヒーローが流用された可能性があります。そうではないのなら、これはおそらく別の個体でしょう。——繰り返しになりますが、プロップは常に複数用意されませう。事実関係を確認するのは難しいです。

ほとんどベスピン/ホスパージョンと同じですが、以下のよう小さな違いがあります。

- “元々レッドボタンがついていた穴は空になっています。(2つ目のレッドボタンはランプソケットにはまったままです)
- “プリント基板は反転し、細い銀色の導線がレバーの方を向いています。
- “グリップ上部の小さなネジが、より明らかに存在するようにも見えます。

追記：多くの根拠に基いて、これは“ランチセーバー”（16ページ参照）と同一のものであるとされています。これが正しければ、クランプレバーを固定するために小さな真鍮製の皿ネジが追加されている可能性があります。



THE SKYWALKER LIGHTSABER EMPIRE STRIKES BACK - STUNTS

私達におなじみのライトセーバーのエフェクトは、“新たなる希望”の後半以降、ロトスコープによって追加されるようになりました。この効果をつけるためには、殺陣用の棒はガイドとして存在するだけでよかったので、モーターで回転するブレードは廃止されました。グラフレックスの内臓はあっけなく取り去られ、よりスタントに適したライトセーバーとなりました。

殆どのディテールはヒーローセーバーそのままに残っており、六角皿ネジが内部でブレードを固定するために用いられています。激しくぶつけ合うので複数作られました。幾つかは個別に識別されています。

詳細：ダゴバで使われたものはパニーイヤーがついていますが、うち一つには黒いクランプバンドがついています。ベスピンで使われたものにはパニーイヤーが欠けており、一つは黒いクランプバンドが、もう一つにはグラフレックスのクランプが付いています。

また、レジン製で、クランプごとリベットでブレードを固定してあるスタントセーバーもあります。



THE SKYWALKER LIGHTSABER EMPIRE STRIKES BACK - STUNT (Severed Hand)

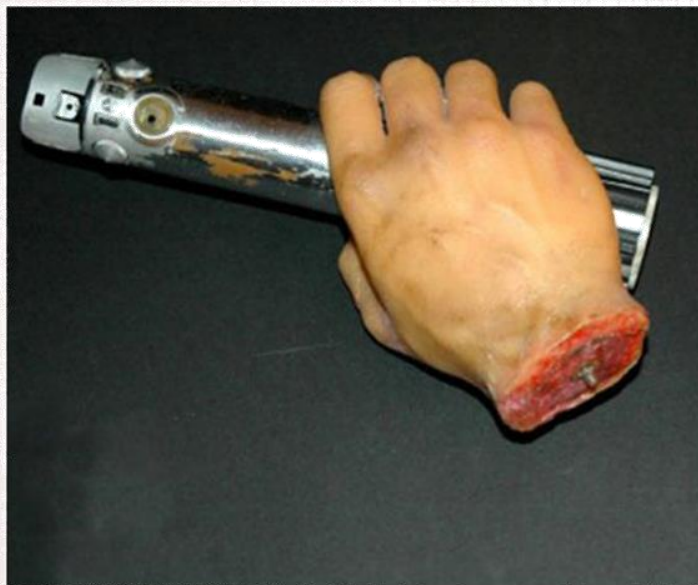
ルークが手を失うシーン用に特別に造られたもので、グラフレックスの上半分と、ローレット加工を削り取ったコボルドフラッシュを組み合わせ、偽物の手に取り付けてあります。小爆破に巻き込まれ、落下シーンに使われたことを考えると、おそらく予備パーツで作られたものでしょう。パニーヤー、2つ目のレッドボタン（もしくはガラスアイ）、Dリングアセンブリー、クランプはいずれもついていません。

その他のパーツは以下のとおりです。

- ピアタブは付いています。
- ローレット加工がされた三角錐状のつまみが端子のあった場所に取り付けられています。
- おそらくコボルドから取り外されたパーツで作られた模造のレッドボタンが取り付けられています。
- 均等に隙間なく取り付けられていると考えるなら、7本の切り欠きのないグリップが取り付けられています。

追記：下半分のコボルドに（6本ではなく）7本のグリップが取り付けられていることは、これが「新たなる希望」の製作から持ち越されてきた品かもしれないことを示唆しています。撮影に用いた殆どのプロップが返却され、修復されてしまったことを考えると、撮影期間の前か後で使われたものと考えることができます。

プロモーション撮影用に用いられた、特殊なダース・ベイダーのセーバーがあります（27ページ参照）。これもコボルドフラッシュから作られたようです。もしかしたらこの2つは同じものかもしれません…。もしくは単にガラクタ箱の底に入っていただけのものなのかもしれません。これらは単なる推測です。



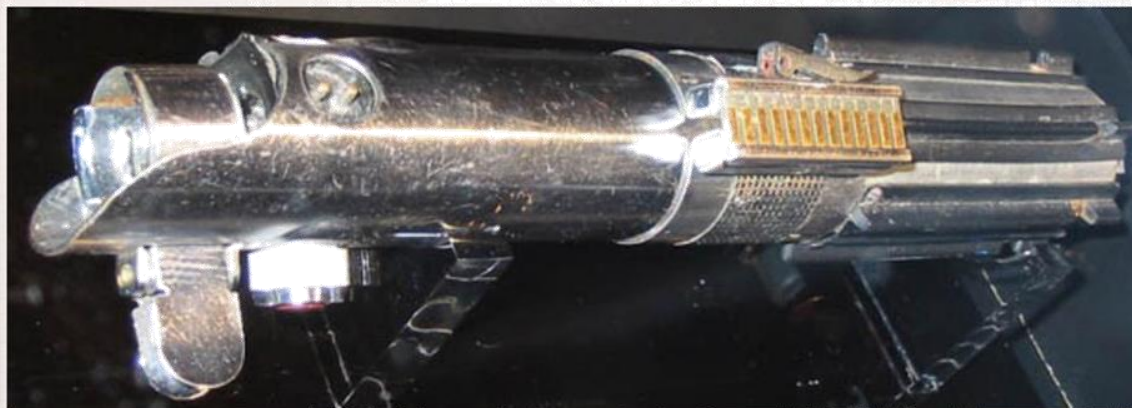
THE SKYWALKER LIGHTSABER EMPIRE STRIKES BACK - THE RANCH SABER

このセーバーはスカイウォーカーランチで展示されているもので、“帝国の逆襲”におけるヒーローセーバーの一つとして公式に扱われているものです。しかし、映像中に見られるものとはいくつか異なる点があります。

- 大きなネジと小さなネジの両方がグリップにあります。
- レッドボタンが本来のポジションにあります。
- ランプソケットは空です。
- 真鍮のネジがクランプレバーを固定しています。
- クランプに1インチ幅の反射性フィッシングルアー用テープが巻かれています。
- D リングアセンブリは裏返して、リベットではなく真鍮ネジで留められています。

これが ESB hero が後に展示用に改修されたものであるとか、プロップ部門に残っていた未使用のセーバーであるという可能性よりは、サビの量から見ても、水分によって全体にダメージを受けたダゴバセーバーが展示に際して改修を受けたものの、という線が妥当でしょう。

追記：このセーバーは“シスの復讐”でアナキン・スカイウォーカーが用いた、通称“skinny flex（細身）”と呼ばれるセーバーのデザインの元として使われています。（46ページ参照）



THE SKYWALKER LIGHTSABER EMPIRE STRIKES BACK - KURTZ GRAFLEX SABERS

“新たなる希望”及び“帝国の逆襲”のプロデューサーであるゲイリー・カーツは、何度かオークションで彼の個人的なコレクションのライトセーバーを出品しました。「撮影に使用したもの」という触れ込みでしたが、これらを映像中で確認することはできません。特にグリップはオークションのために後付されたもので間違いはなく、部品の配置は ESB や ANH を混同して捉えて作られています(ANH 形式の上部に、ESB 形式の下部など)

これらは撮影のためにプロップ部門にあったものかもしれませんが、パーツ取りのためにあったもので、実際にはセーバー完成品でもなかったし、撮影にも使われていない可能性が高いです。(出品されたものの一つにはレッドボタンが欠損していました)



LETTER OF AUTHENTICITY

This is to confirm that the Luke Skywalker lightsaber you have purchased is from my film archive. The piece was preserved as I have always tried to keep a small selection of production pieces and paperwork from each film I have produced, including Star Wars and The Empire Strikes Back.

Now the archive is being catalogued and inventoried so that it can be properly preserved for future generations, and it has become apparent that there are several items which I have duplicates of. It is one of these pieces that you have obtained.

I have no hesitation in authenticating that this is an original prop from my personal archive.

Signed:



Gary Kurtz

THE SKYWALKER LIGHTSABER THE FORCE AWAKENS - HERO (Rey | Finn)

(別名: Snow Saber 又は単に TFA)

続編三部作のセーバーは、新三部作でスクラッチビルドされたセーバーと同じ傾向をたどると思われませんが、ありがたいことに、物語の要となるスカイウォーカーのライトセーバーに関しては実物のグラフィックスが使われ、原点回帰を果たしています。結果的に、ANHとESBの2つのセーバーの特徴を1つに合わせたものとなっています。

Luke ANHのように、グラフィックスの標準的な特徴がほとんど残っています。

- “レッドボタン”と呼ばれる背面の赤い作動ボタン
- “バニーイヤー”と呼ばれる電球バルブのホルダー
- スライド式電源スイッチ
- “ピアタブ”と呼ばれる、緩めた作動ボタンが脱落しないように背面に固定されている金具

下半分はESB heroに似ています。

- クランプは3時の方向にあります。
- クランプのGRAFLEXのロゴは、薄い金属版によって覆い隠されていますが、刻まれた線と打ち抜き穴は再現されています。
- Dリングアセンブリは2本のリベットで留められていますが、コボルドブラケットは側面の穴がないことなどから、ヴェンテージではなく1から作られていることがわかります。

幾つかの部品は新規に作られるか、変更されています。

- “グラスアイ”はローレット加工が削り取られ、なめらかな真鍮地が露出しています。

▪ クランプカードは半透明で、基板の独特のデザインを模倣しています。

▪ Dリングアセンブリと底面の間には平坦なカバーがされ、グラフィックス社の権利情報などは隠されています。

▪ T-トラックグリップは6本です。

グリップとその取り付け方法に関しては引き続き議論の対象となっています。(次ページ参照)



THE SKYWALKER LIGHTSABER THE FORCE AWAKENS - HERO (Maz Box)

TFAのT-トラックは社内で1から作られたものですが、ゴム製なのか射出ABS成形なのか3Dプリントされたのか、詳細ははっきりしません。

当初は、ESB heroにはリベットが使われたという考え方にTFAのプロップ班が影響されたのではないかという説に賛同の声が集まり、グリップの取り付けには3mm径のリベットがよく使われました。

六角穴ネジやトルクスネジが使われているという人もいます。ほとんどのスクリーンショットはリベット説に傾いているようにも見えますが、幾つかの“スノーセーバー”画像では球根状の形状にも見えます。

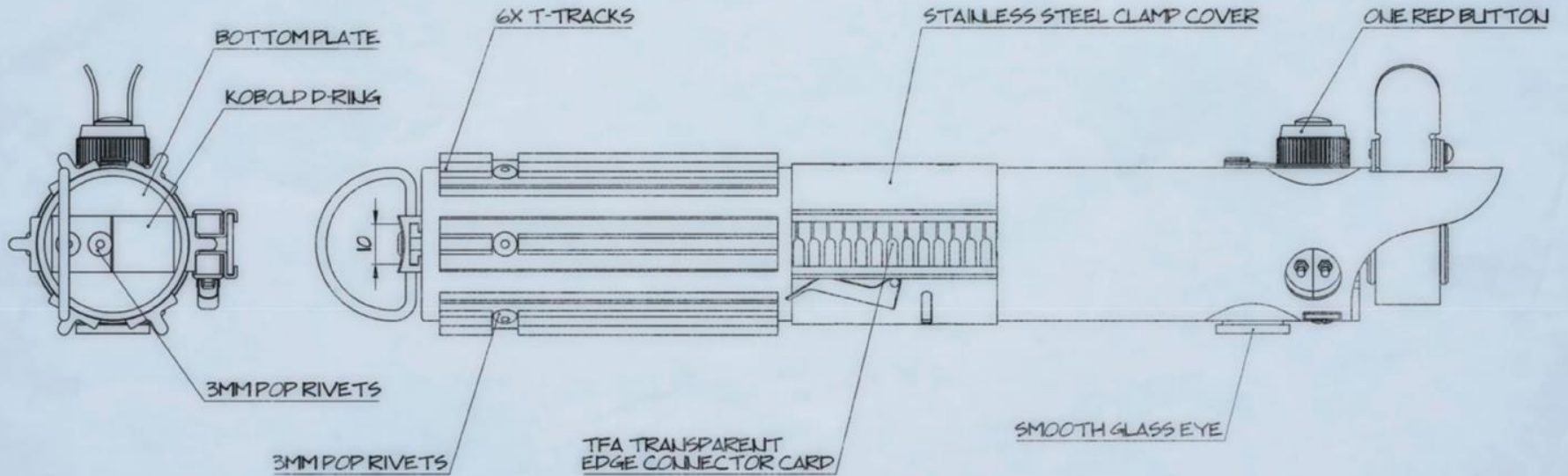
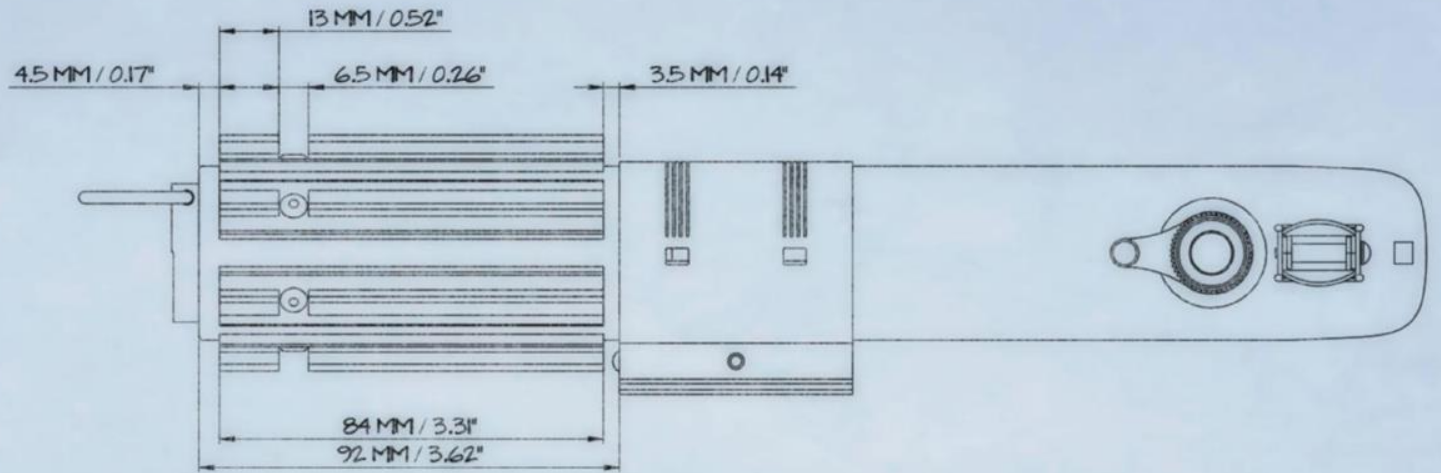
2本のheroセーバーは、グリップ以外はほとんど同一です。

グリップには2つのheroそれぞれで違った切り欠きがあります。“Maz Box”が箱に入っているシーンでは、多くの部分の詳細ははっきりとしませんが、グリップ以外の部分は同じグラフィックスをベースに作られているとして比較して構わないでしょう。

“レイ/フィン”セーバー（前ページ参照）には底面から始まりクランプの3.5mm手前までの長さのグリップが付いています。グリップ長は88mmで、切り欠きの大きさは7.4mm、底面側から13mmの位置から始まっています。

“Maz Box”セーバーとして知られるもう一つのメインheroのグリップは底面から4.5mm短くなっています。グリップ長は84mm、底面側から13mmの位置に切欠きがあり、サイズは6.5mmです。上部端はクランプから3.5mmの位置にあります。





TFA GRAFLEX HERO PROP
(MAZ KAWATA'S CASTLE)

THE SKYWALKER LIGHTSABER THE FORCE AWAKENS - STUNTS

“フォースの覚醒”で使われたスタントセーバーには2つのモデルがありますが、これらについてわかっていることはわずかです。公式の映像制作において、セーバー愛好家が開発した技術が採用されるのは初めてのことです。

すでにセーバーコミュニティでは一般的となっている、電子的に制御され、光を放ち周囲を照らすことのできる殺陣用セーバーを、映画製作当初から作る計画になっていました。

まず第1のモデルはグラフィックス製で、LED ブレードを追加したものです。プロップの原則に従っておそらく複数造られたと思われます。このタイプはモーショントラッキング用のXML データを送信するためのアンテナが底面についており、いくつかのシーンで確認することができます。グリップは“Maz Box”バージョンに似た短いものです。

第2のモデルは同じ電子ユニットを内蔵していますが、グラフィックスに似せたシンプルな筒状外装で、パッド状の素材で包んであるものです。デイジー・リドリー、ジョン・ボイエガ、アダム・ドライバーはインタビューで、ライトセーバーは実際に戦闘に使うにはとても難しいものだとして述べています。この「柔らかい」スタントセーバーは、俳優陣の要求に応じて撮影途中で追加されたものと思われます。このタイプは、追加された分厚いクランプ部分を探すと、数カット中で確認することができます。

「ソフト」バージョンは引きの絵の戦闘シーンで多く使われました。クローズアップや中距離の撮影に必要な細かい造形はしていないと考えるのが妥当でしょう。



THE SKYWALKER LIGHTSABER

THE FORCE AWAKENS - DISPLAY VARIANTS

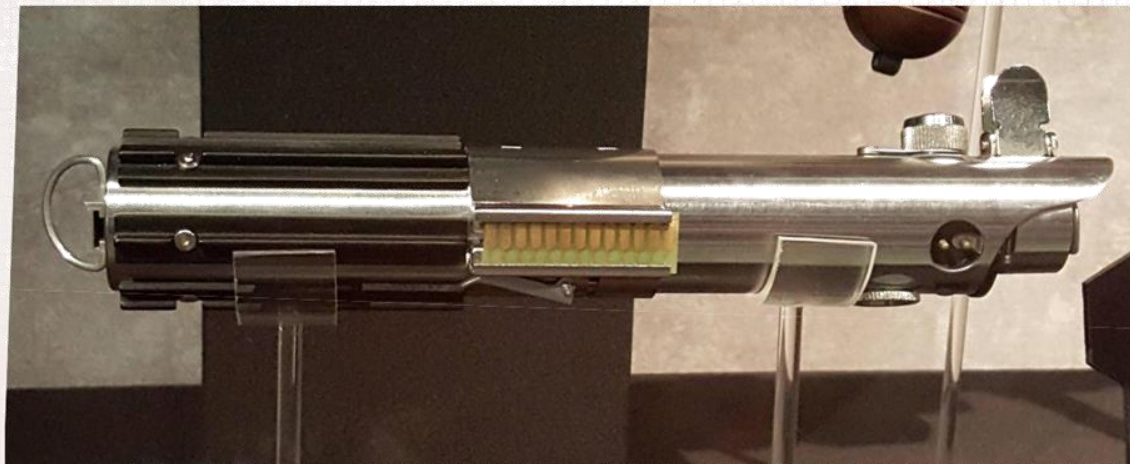
(Launch Bay, Visual Dictionary)

TFA グラフレックスを巡る混乱のほとんどは、プロップ制作部門がプロモーション用のバージョンを制作した事に由来しています。それらが細かい点でも全て hero と一致していれば問題なかったのですが、そうではありません。

ビジュアルディクショナリーや初期のプロモーション用の展示、ディズニーパークスなどでライトセーバーが紹介されましたが、予想していたように、グラスアイのローレット加工が残っている、グリップやそれを取り付けするためのパーツが違うなど、どれも映像中のプロップとは細かな差異がありました。

これらは実際のプロップと同じ由来のものではあるので、観察することで仮説を立てる手助けになりました。これらのバリエーションの殆どでグラスアイのローレット加工が残っている以上、映画に用いられたものではないとすべきでしょう。

スターウォーズにはレプリカにも長い歴史があり、プロモーションツアーや博物館でもスクラッチビルドされたものが使われ、「本物」として展示してあります。騙されてはいけません！



DARTH VADER'S LIGHTSABER

ダース・ベイダーのライトセーバーはスカイウォーカーのそれと同じくらい象徴的であり、現実世界ではより希少な（そしてより高価な）品とされています。数多くのバリエーションが明らかになっており、最も複雑な系統を持つセーバーです。

あなたが許可を得さえすれば、背の高い男を雇い、スーツの中に入れるだけで、どこでだって何が起きるかわかりきっています。ベイダーの人気に加え、オリジナルの俳優を雇わずとも彼を披露できるので、イベントや展示会や博物館などで重宝される常連となりました。しかしライトセーバーなしにそのスーツをまとふ事は許されません。



DARTH VADER'S LIGHTSABER A NEW HOPE - HERO

(別名 Vader ANH Silver Side Bars)

ダース・ベイダーのライトセーバーは、ロジャー・クリスチャンにより、グラフレックスと同じ考え方に沿って造られました。ライトセーバーとしてこんなに完璧なデザインをしているカメラフラッシュがあったんだから、きっと他にもあるだろう？

黒とクロームメッキのMPPフラッシュガンはベイダーと出会うべくして出会った組み合わせでした。

MPPはイギリスでははるかにありふれていた Heiland Synchronar フラッシュの模倣品で、グラフレックスとほぼ同様の改造を施されました。

基本的なMPPの特徴のいくつかが残されています。

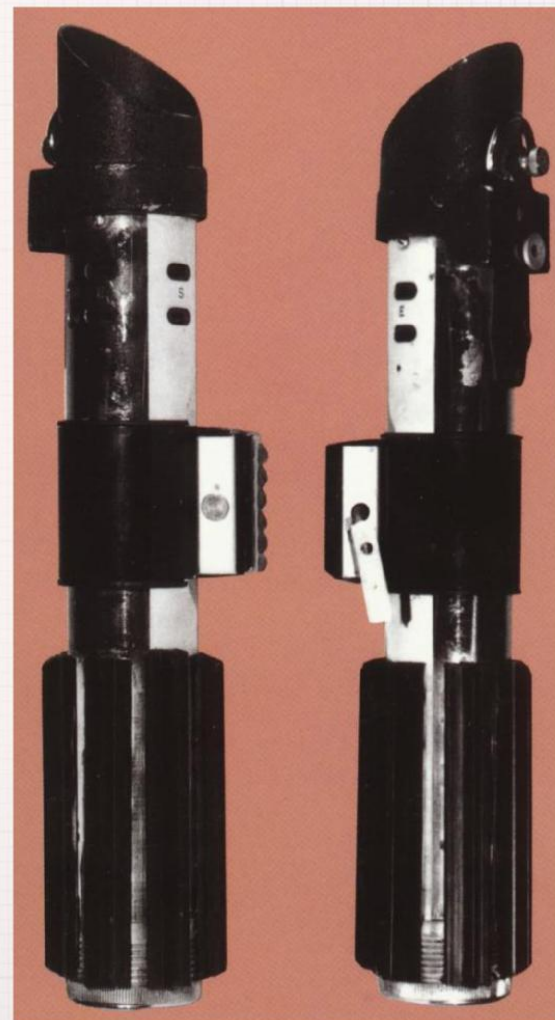
- 斜めになった「シュラウド」とよばれる先端パーツ
- 6時方向に銀のサイドバーを備えたクランプ
- 電球開放ボタンとフラッシュ動作ボタン

追加された要素

- シュラウドのDリング
- 5つと半個に切り落とされた Exactra 計算機のバブルレンズ
- 7本のT-トラックグリップ。サイズや傾斜角度はグラフレックスに使われたものと同じ

ベイダーANHには2本のheroセーバーがありました。クランプ部分以外はほとんど同じです。2本はそれぞれ「black sidebars」「silver sidebars」と呼ばれ、各々のクランプボックスの側面にあるパーツの色を指しています。

「シルバーサイドバー」ではクランプレバーが破損しており、釘をレバーの場所に突っ込んで補修してあります。底面からシュラウドの方に向かって見て、12時方向に電球開放機構が、おおよそ6時方向にクランプボックスが向き、クランプレバーは9時方向を向いています。このバージョンを一番よく確認できるのはタンティブIVでのベイダー登場シーンです。



DARTH VADER'S LIGHTSABER A NEW HOPE - HERO

(別名 Vader ANH Black Bars)

「Black Side Bars」バージョンのクランプレバーは破損しておらず、おおむね3時方向（Silver Barsの反対方向）を向いていますが、少し傾いているとされています。

計算機のバブルレンズの代わりに、数字LEDのついた基盤部分を取り付けられています。これは Exactra 計算機からバブルレンズが他のセーバーに使う用に取り外された際、見出されたのかもしれませんが。

クランプは silver bars よりも下部側、つまりグリップ寄りに少しズレています。

確認するにはレイアへの尋問のシーンが一番いいでしょう。

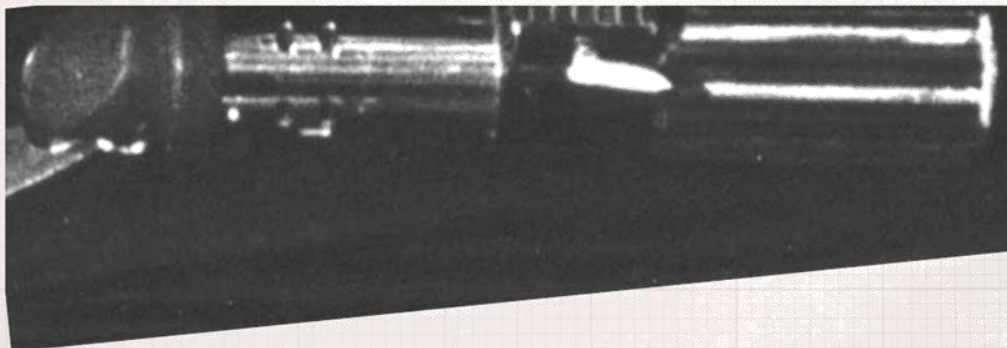
追記：MPP には、本来シュラウドとクランプの間に製品ロゴが入った金属プレートがついています。このプレートは、劇中の全てのMPPから取り除かれています。

グラフィックスは数十年経ってもわずかに変化しただけですが、MPPは頻繁に新モデルに更新されました。コレクターにとっては困った話です。

変化しているのは以下のような点です。

- 底面キャップのネジ切り溝
- シュラウドの表面仕上げ
- シュラウドを固定するネジのローレット加工
- クランプサイドバーの取り付け角度
- シュラウドの段差の量
- 端子穴の形状

これだけのバリエーションがあるにも関わらず、それぞれの劇中に登場するプロップの特徴は（クランプを除いて）一致しています！



DARTH VADER'S LIGHTSABER A NEW HOPE - STUNT

(別名 Luke/Vader SharedStunt)

前の章で述べたように、ダース・ベイダーのスタントセーバーはルークが使ったスタントセーバーそのものでした。大まかにグラフレックスに似せたシンプルなパイプを切り出し、中にモーターを仕込まれています。レッドボタンとグラスアイ、グリップとクランプも取り付けられましたが、パニーイヤーはついていません。

ベイダーの撮影時には、先端を黒く塗るという簡単な変更が加えられました。幾つかのシーンでは、MPPのシュラウドに更に近づけるために、四角いブロックが追加されています。



DARTH VADER'S LIGHTSABER PROMOTIONAL KOBOLD

この奇妙な見た目のセーバーは、日本でのプロモーションに使うために、小さなコボルドフラッシュの上にエアブラシで描き加えられたものです。

コボルドは劇中でドロイドコーラーとして用いられ、取付金具は取り外されてグラフィックのDリングアセンブリとして使われてもいます。

この写真は“新たなる希望”の製作後に撮られたものなので、ANHプロップは修復の後返却され、その後必要なときは応急的に対処しなくてはならなかったという説の根拠として一役買っています。

これは私の個人的な説ですが、このコボルドには他のANHセーバーのように7本のグリップが取り付けられていたのかもしれない。私は15ページの「手に取り付けられたスタントセーバーの下半分」として有力な候補ではないかと考えています。

勿論なんの証拠もありませんが…。



DARTH VADER'S LIGHTSABER EMPIRE STRIKES BACK - HERO

(別名 Vader ESB)

“帝国の逆襲”におけるダース・ベイダーの hero セーバーは、映像中に登場するセーバーの中でも、最も詳しく検証されているものの一つです。ここ数年間で実物プロップに関する発見が相次いだのは、イギリスの the PropShop による買収劇と、JW・リンズラー著の MAKING OF Empire Strikes Back book によって多くの素晴らしい写真が出回ったためです。

ベイダーANHのように、ベイダーESB heroもMPPフラッシュをベースとしています。

以下のような変更が確認されています。

- Exactra 計算機のバブルレンズが再度切り取られています。今回は計算機の基盤も一緒に取り付けられています。基盤は青と銅色が透けて見えています。

- 前と同じくDリングが取り付けられています。

- 様々な色の小さな導線が、シユラウドの下にある端子に追加されています。グラフィックスのロゴをテープで隠したのと同じように、地球の文字を隠した可能性があります。

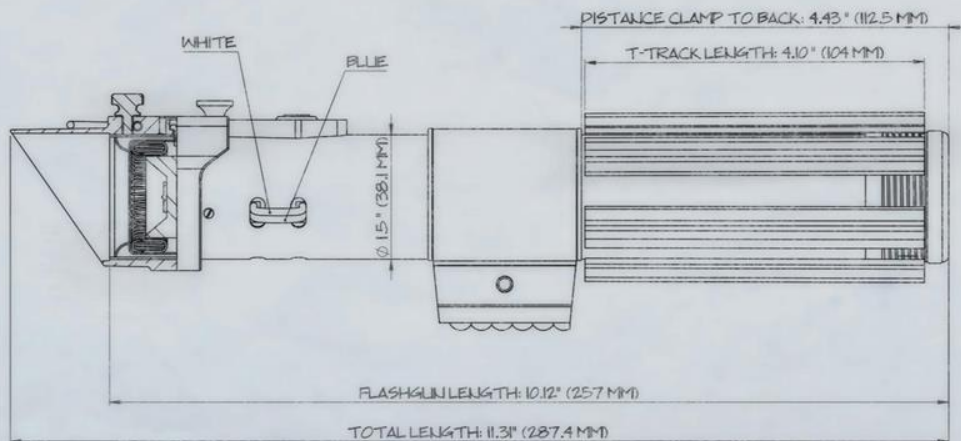
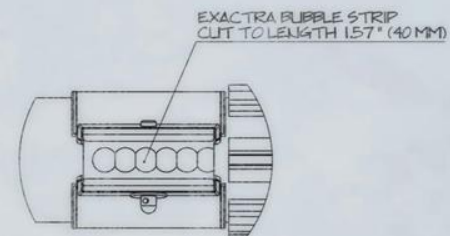
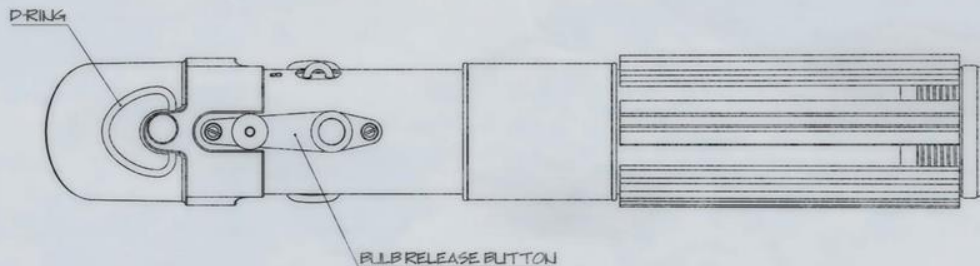
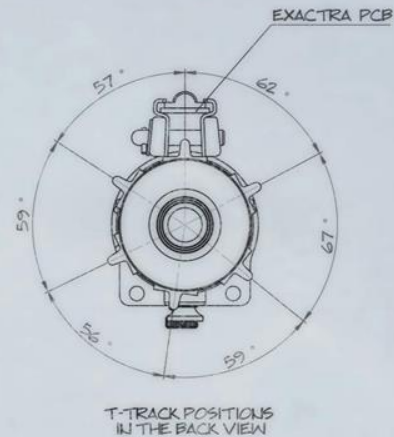
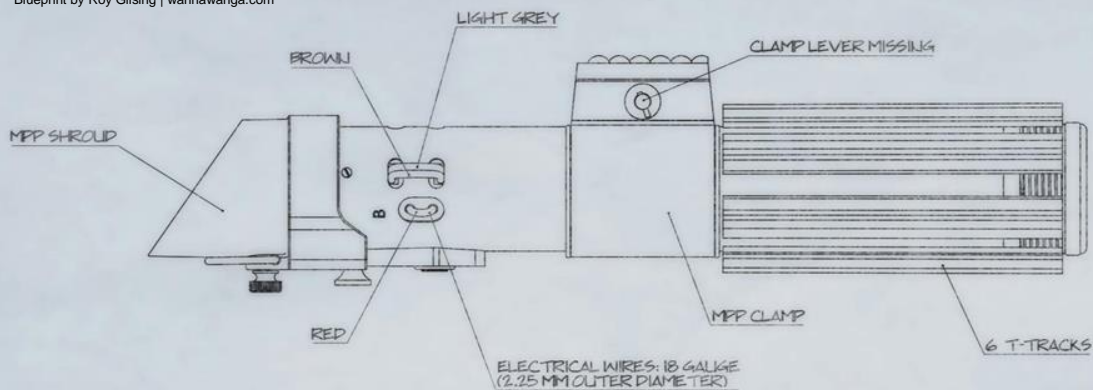
- クランプのサイドバーは黒で、クランプの形状に沿って平行に取り付けられています。

- クランプのレバーは紛失していますが、その軸やワッシャーは残っており、クランプを固定しています。

- 両端がまっすぐなままの6本のグリップが、クランプぎりぎりから底面まで取り付けられています。

追記：今日の姿を見ると、グリップにはダゴバ/ランチセーバーと同じような2mmのネジが上下の対角に取り付けられているのが確認できます。これらを確認できるような鮮明な劇中のスクリーンショットはありません。





312

20 CENTURY FOX LTD.				PROD. N°
THE STAR WARS				E76/1
SET DARTH VADER ESB LIGHTSABER				SET. N°
DETAILS MPP FLASHGUN BASED				SCALE
				1:1
DRAWN	Carps	Metal	Conct	DRG. N°
DATE	Paint	SFX		JR
23-2-79	Plaster			

DARTH VADER'S LIGHTSABER EMPIRE STRIKE BACK - STUNT

ベイダーのスタントセーバーもグラフレックスのスタントと同じく、もはやモーターを内蔵する必要がなくなったため、殺陣用の棒が直接MPPに差し込まれています。

ベイダーの手でほとんど隠されてわかりませんが、グラフレックスと同じように、使用者の手を守るために何らかの加工が行われている可能性があります。



DARTH VADER'S LIGHTSABER RETURN OF THE JEDI - HERO

“ジェダイの帰還”では混乱が生じています。
私はもっとも広く受け入れられている説を紹介していますが、
人によっては異論があります。
問題なのは、映像中のベイダーはライトセーバーを身につけて
いないか、ほとんど映らないように撮影されたということです。
はっきりと“ベルトハンガー”セーバーが映っているシ
ーンはありません。

ESB hero が ROTJ ベルトハンガーとして使われたことを示
すプロモーション用の画像が存在するという噂もありますが、
少なくとも Google ではそのような画像を捉えることはでき
ません。
仮説の域は出ませんが、以前最後に ESB hero が確認され
たのは ROTJ 中心の展示会でしたので、ROTJ でのベルトハン
ガーには ESB hero が変わらず使われたのではないかとす
る考え方もあります。



DARTH VADER'S LIGHTSABER RETURN OF THE JEDI - STUNT

(別名 MOM 又は "Vader ROTJ Hero")

"ジェダイの帰還"のベイダーのライトセーバーとして最も一般的に認知されているのは「MOM」セーバーです。これは「Magic of Myth」と銘打たれた、スターウォーズのプロップや衣装を紹介する博物館ツアーと書籍の略称です。同じセーバーはスターウォーズアーカイブスブック(1995)でも見ることができます。紹介の程度によって、「HERO ベイダーセーバー」や単に「ベイダーROTJ」などと誤った紹介がされていました。

かいつまんでお話ししますが、「ジェダイの帰還」の撮影が終わりに近づくと、小道具類が無くなっていった、と多くの人々が証言しています。皆スターウォーズがこれで終わると思ひ、作品の一部を求めたのです。90年代にスターウォーズ特別編として作品の再生が行われた時、これはアーカイブ部門に残されていた数少ないセーバーの一つでした。このセーバーは玩具やバトルフロントのようなビデオゲームのモデリングの元としても扱われました。

私の知る限り、このセーバーは劇中では2回しか見ることができません。1つはベイダーがルークにセーバーを投げつけるシーン、もう1つは、ベイダーがルークに手を切り落とされる直前の戦闘でスタントとして使われているシーンです。

このセーバーに使われているパーツは今でも調査中ですが、いくつかは判明しています。

- 本体はすべてのパーツを取り払われたグラフレックスで、MPPの見た目に近づけるために磨かれるか再メッキされています。
- ANHスタントのように先端が黒くペイントされています。
- 電球開放アセンブリがあった場所には食器棚のドアラッチに使う、長さ50mmボールキャッチがつけられています。
- 7本の3と5/8インチのTトラックが接着されており、リベットやネジはありません。これらのグリップはANHの

プロップから再利用されたのではないかと考えられています。

以下のパーツに関しては未だに謎です。

- 太鼓のような形のDリングアセンブリがバニーイヤーのあった溝に取り付けられています。
- タイヤバルブのような何かがグラスアインソケットに取り付けられています。
- クランプボックスは全くの謎です。
- シュラウドはHeilandフラッシュかMPPフラッシュのバリエーションの可能性もありますが、なにかの流用か、このセーバーのために新規に加工されたものである可能性が高いです。ANHスタントに使われた方法によく似ています。

3つの重要な特徴が、これはルークが"帝国の逆襲"において使用したスタントセーバーの流用だということを指し示しています。

- ESBのグラフレックスに使われたコボルドDリングアセンブリがそのまま残っています。
- 数個の1/2インチ径六角皿ネジがねじ込まれている位置が、ルークのスタントセーバーの写真で確認できるものと一致しています。
- グリップの下からのぞいている穴は、ESBのグリップを固定していたネジが外れた跡である可能性があります。

追記：ベイダーがこれを投げるシーンでは、間違った側に光刃がロトスコープで描き加えられています。展示画像では殺陣用の棒は折り取られているように見えますが、対決シーンの後に投擲シーンが撮られたのか、何らかの理由で差し替えられたのかなど詳細は不明です。

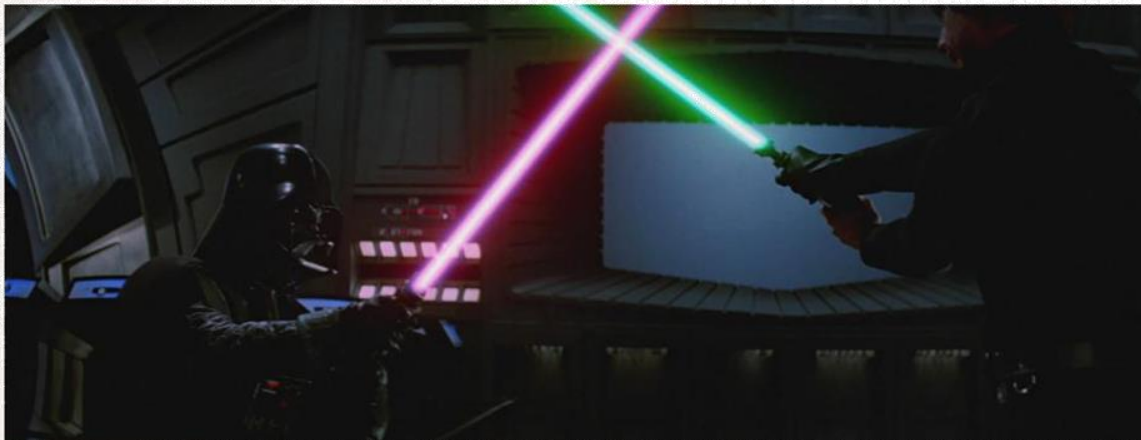
このセーバーはRPFメンバーKorbanthが製品化したレプリカにちなんで「DV6」と呼ばれることもあります。



DARTH VADER'S LIGHTSABER RETURN OF THE JEDI - STUNT (MPP)

ほとんどの対決シーンにおいて、詳細を確認するのは非常に難しいですが、戦闘シーンの初めの方の一部で見られる、斜めになった分厚い縁とシュラウドの固定ノブは、MPPのものとして間違いないでしょう。

最も有力な仮説は、これは単にESBに使われたスタントセーバー（30ページ参照）の流用である、というものです。



DARTH VADER'S LIGHTSABER RETURN OF THE JEDI - STUNT (Severed Hand)

“ジェダイの帰還”の劇中でもっとも鮮明に確認できるベイダーのセーバーは、一度限りしか使われず、プロップ部門が作ったものでありません。

切断されるベイダーの手は、生物の複製を含むため、特殊メイクの一部として扱われました。劇中の全ての人口義肢製作を担当したチーフアーティストのスチュアート・フリーボーンが即興的に対応しました。

うまくいくまで何度撮り直しがあるかわからなかったし、マーク・ハミルが間違えてプロップに棒を当てると簡単に壊れてしまうことが予想されたので、彼は複数の専用セーバーを作りました。MPPの外観を参考にはしていますが、特殊メイク部門にあったガラクタや、プロップ部門に残っていたスタントセーバーの部品を寄せ集めて作られたものでした。そのため、他のheroセーバーと比較して正確に作られているとは言えませんが、そもそもそのようなことは意図されていない品です。(繰り返しになりますが、視聴者が高解像度の映像を一時停止できるようにするとは誰も思っていませんでした)

フリーボーンの数本のセーバーは何年かに渡ってオークションに出品され、その素性を知ろうとする上では混乱の元になりました。

最終的に使われたカットのものは、シユラウドの裏にある小さな円形の突起などで識別できます。



DARTH VADER'S LIGHTABER RETURN OF THE JEDI - KURTZ SABER

ゲイリー・カーツは、彼のグラフィックスセーバーと同様に、ベイダーのセーバーもオークションに出品しました。我々は、売りに出された彼のグラフィックス達がプロップ部門から頂戴したものであり、劇中では決して使われていないことを知っています。ベイダーのセーバーも同様です。

しかも、カーツは“ジェダイの帰還”の製作に参加していませんので、“帝国の逆襲”での何らかの代用品か即席の品であるべきなのですが、“ジェダイの帰還”のものであると銘打たれていました。

これは ROTJ の撮影後に作られた数本のバリエーションの内の一つである可能性が非常に高いです。(プロップに似せただけの品です。次ページ参照)

そしてどういわけかカーツの手に渡りました。カーツがドン・ビーズに自分のグラフィックスを代理出品するよう依頼した折、ビーズが作ったベイダーセーバーを購入するか譲り受けるかしたという説が最も有力です。(次ページ参照)

いずれにしても、これは映像中には決して登場しません。



DARTH VADER'S LIGHTSABER RETURN OF THE JEDI - PROMOTIONAL VARIANTS

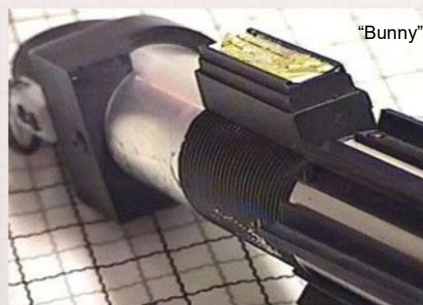
プロップ製作者でもあり、スターウォーズのコレクターでもあるドン・ピースは、90年代半ばの特別編製作が始まった時、ルーカスフィルムに雇われました。彼はILMに協力して、行方不明になったり壊れてしまったりしたプロップの再制作を任せられました。前述したとおり、ダース・ベイダーはよく公式のプロモーションイベントに登場しました。時には複数の場所で同時に存在しなくてはなりません。これも繰り返しになりますが、製作終了に伴って多くのベイダーのセーバーが散逸していたので、プロモ目的のセーバー製作の役目がピースに回ってきたのです。

フリーボーンのように、彼はルーカスフィルムが提供可能な画像を元に、作成可能なものを手がけました。細部はスクラップ部品を使うことで実物に近づけました。あるモデルはHeilandフラッシュを使って作られ、他のものは完全スクラッチビルドです。それらを代表する2本があります。

1本目は「バービカン(Barbican)」セーバーです(この名前は後にこれが収蔵された美術館の名前にちなみます)。MPPクランプとESBスタイルのPCBクランプカードが使われているので、よくESB heroと間違えられます。ランチセーバーのように、この変種は「シスの復讐」のベイダーセーバーの元として採用されました。(46ページ参照)

2本目は「バニー(Bunny)」セーバーです。90年代のスーパーボウル(アメフトの全米優勝決定戦)のコマーシャルで、電池メーカーのマスコット、エナジザイバーバニーとダース・ベイダーが対決しました。シスの暗黒卿のセーバーは普通の電池では故障して止まってしまうという内容でした。

これもまたピースの手によるもので、ベイダーがエンドキャップを外してバッテリーを点検するシーンを撮影するために、マグライトのボディを流用して作られました。CMの最後に、ベイダーはレジン製のスタントセーバーを足元に落として蹴り飛ばします。そういったレジンキャストの一つが発見され、RPFで複製プロジェクトが行われました。





OBI-WAN KENOBI'S LIGHTSABER

ルークとパイダーのセーバーが写真機材から転用されたのに対し、オビ・ワンの武器は格好のガラクタを入手できたことで生まれました。ロジャー・クリスチャンは、特にタトゥーインの撮影での制作デザインが多くは、航空会社や軍用品のスクラップが手に入ったことでもたらされたと語っています。当時、そういった品は非常に安価で、まとまった量を買取ることが出来ました。

ジェットエンジンがブラスターやドロイド、スターファイターを作るために分解されましたが、全くの偶然から、ひとつかみの似たような直径を持つ部品たちが完璧に調和し、使い込まれた神秘的なセーバーを形作りました。

OBI-WAN KENOBI'S LIGHTSABER A NEW HOPE - HERO

2005年まで、オビ=ワンのセーバーの正確な構造は謎に包まれていました。ほんの僅かな画像と図面しか存在しなかったからです。スクラップの寄せ集めから造られたものである上に、“新たなる希望”の撮影後は分解され、転用されてしまったため、新規のクローズアップ画像が手に入る機会は、撮影クルーの個人的なコレクションから舞台裏の写真が偶然発掘されるなどという事件が起きない限りは、ほぼ不可能に思われました。

グラフレックスクランプや蛇口のノブなどの幾つかの部品の正体は明らかになっていました（しかし、正確な製造元とモデルが確定するまでには時間がかかりました）。理論的な考察が行われ始めた時代、有名な説の中には機関銃やオートバイの部品などが含まれていました。ゆっくりとその姿は明らかになっていきました。

他のスターウォーズの小道具たちも、同じ出処のパーツから作られているため、そこから発見に結びつきました。例えば、IG-88 ドロイドの頭部は古いジェットエンジンの一部から作られていることが知られていました。そのエンジンがファンによって発見され分解された時、誰かが部品の中にオビ=ワンセーバーのエミッター（光刃放射口）があることに気がついたのです。

今日では、ほぼすべての部品の素性が判明しています。そのうちいくつかは比較的簡単に手に入りますが、殆どの部分は驚くほど希少なものです。ファンにとってはありがたいことに、オリジナルに忠実な複製パーツが存在し、少なくとも95~98%は正確なレプリカを作ることができます。

上部から底面までパーツを列挙します。

- 「エミッター」はロールスロイス・ダーウェント Mk8 または Mk9 ジェットエンジンのバランスパイプで、燃料圧力調整システムの非常に重要なパーツです。具体的には、アセンブリの「雌型」部分です。

- 「グレネード」は中央のグリップ状部分のことを指し、1916年から生産され、第一次世界大戦で用いられた、

No.3 Mk1 イギリス製ライフルグレネードで出来ています。ライフルに差し込み、空砲で遠方に飛ばす仕組みの榴弾兵器です。

- グラフレックスクランプと Exactra バブルレンズはグラフレックスセーバーに使われている組み合わせと実質同じです。

- 2つのトランジスターは正確なモデルがまだ不明です。ワッシャーとともにクランプの側面に取り付けられており、クランプボックスを12時方向として、9時方向にあります。

- 「ブースター」もしくは「ギア」と呼ばれる部分は、プロニング ANM2(.303 MkII)という機載用機関銃の先端部です。具体的にはフラッシュサプレッサー（消炎器）と銃身の間の部分です。

- 「ボンメル」は、クロームメッキ加工されたイギリス製の蛇口のノブ（イギリス英語では“ハンドウィール”と呼ばれます）で、アーミテージ・シャンクス社の「スターライト」モデルです。タトゥーインの撮影シーンではエンドキャップが欠落しているように見え、他にはその有無を確認できる画像はありません。

- Dリングがボンメルの箱状部分に開けられた穴に取り付けられており、その位置はトランジスターの反対方向です。

ほとんどの部品の直径が揃っており、中空であることから、シンプルな棒とナットで全体が結合されていると仮定されています。殆どのレプリカはクランプに中心となる部品を内蔵しており、おそらく実物も似たような仕組みをしていると思われる。

何本の hero セーバーが作られたのかは不明ですが、いくつかの相違点が見つかっています。タトゥーインではグレネード部分が上下反転している可能性が残っています。またエミッター内部に“円錐”パーツがあるように見えるシーンもあれば、黒く見えるシーンもあります。別の些細な派生として「クロニクル」と呼ばれるセーバー（これを紹介している書籍の名前にちなみます）がありますが、映像中のものに比べて非常に小さな違いしかありません。すなわち、上部に近い方のトランジスターについていたワッシャーが失われ、幾つ

かの小さな固定ネジが追加され、クランプとブースターの間に小さな固定ピンが取り付けられているという具合です。クロニクルセーバーの傷や汚れは映像中の hero セーバーと一致するため、写真撮影のために少し調整され再組立されたというのが一般的な見かたです。

追記：ランチセーバーやベイダー“バービカン”セーバーと同じように、このセーバーも“シスの復讐”のオビ=ワンセーバーのデザイン元になりました。（46 ページ参照）



OBI-WAN KENOBI'S LIGHTSABER A NEW HOPE - STUNTS

(別名 Shared Stunts)

ルークとベイダーの共通スタントセーバーと同じように、オビ=ワン ANH のスタントセーバーは電動によるエフェクトを効率よく実現するためにスクラッチビルドされました。hero を元に木製の複製が作られ、そこから鋳造品が作られました。ポンメルをつなぎ目の線は、全体をフライス加工で削り出す手間を避け、“キューブ”部分を鋳造したことを示しています。

いずれにしても、最終的には hero セーバーの姿をした金属製のスタントが出来上がりましたが、外観のディテールは省略されたものでした。例えばブースター部分は滑らかでした。ネック（首）部分は hero の「羽根車(windvane)」部分に合わせて真鍮色で塗られましたが、グレナードは、初期のセーバーエフェクトに使われた照明の光を反射しないよう、ツヤ消しの黒で塗られました。グラフレックスクランプを追加して外見は完成しました。

少なくとも2つのバージョンがあることが知られていますが、そのうちの一つは、クランプレバーが素性の分からない長いものに置き換えられています。その反対側にあるサイドバーは破損し、四角ナットだけが残っているように見えます。このモデルは、“グレナードの輪”の不揃いになっている数が少ないという点で、ほんの少しだけその「弟」よりも正確に作られています。

このスタントセーバーたちには、スターウォーズという物語全体に通じる系譜があります。“新たなる希望”でオビ=ワンに提供された後、内蔵モーターと配線は取り除かれました。“帝国の逆襲”の撮影中も撮影現場にあり、製作に関わりました。舞台裏の写真で、デビッド・ブラウズとマーク・ハミルがリハーサルで使っているところをはっきりと見ることが出来ます。

“帝国の逆襲”の監督、アーヴィン・カーシュナーは撮影中これを携えて演技指導をしたので、俳優やスタントパフォーマーが使っているセーバーをその都度いちいち貸してもらう必要がありませんでした。

一本は、殺陣用の棒がついたまま、反乱同盟軍兵士の「工具」としてエコー基地の背景に登場しています。

2本とも“ジェダイの帰還”でも動員され、ルークが使用しました。それ故に「共有スタント(shared stunt)」のニックネームが付いたのです。

追記：3番目のスタントセーバーがオビ=ワンの死のシーンで使われています。ディテールの欠如から、hero ではないのは明らかです（舞台裏映像でよく見えます）。それがすでに失われた特別な品なのか、モーターや配線を取り除いただけの普通のスタントなのか、定かではありません。

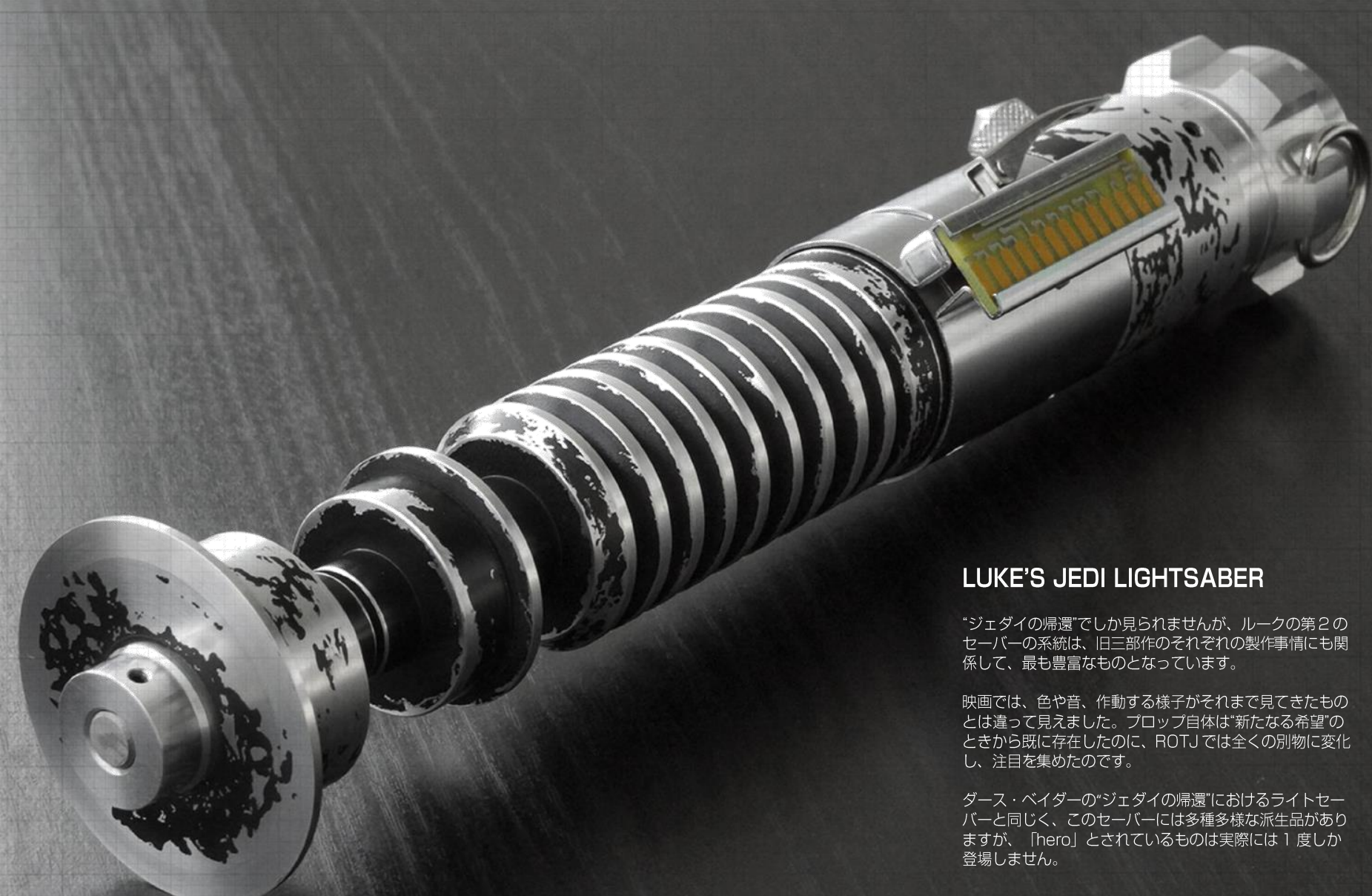
V3 Shared stunt (see page 42)



V2 Shared stunt (see page 41)



V2 Shared stunt (see page 41)



LUKE'S JEDI LIGHTSABER

“ジェダイの帰還”でしか見られませんが、ルークの第2のセーバーの系統は、旧三部作のそれぞれの製作事情にも関係して、最も豊富なものとなっています。

映画では、色や音、作動する様子がそれまで見てきたものとは違って見えました。プロップ自体は“新たなる希望”のときから既に存在したのに、ROTJでは全くの別物に変化し、注目を集めたのです。

ダース・ベイダーの“ジェダイの帰還”におけるライトセーバーと同じく、このセーバーには多種多様な派生品がありますが、「hero」とされているものは実際には1度しか登場しません。

LUKE SKYWALKER'S JEDI LIGHTSABER RETURN OF THE JEDI - HERO

(別名 the V2)

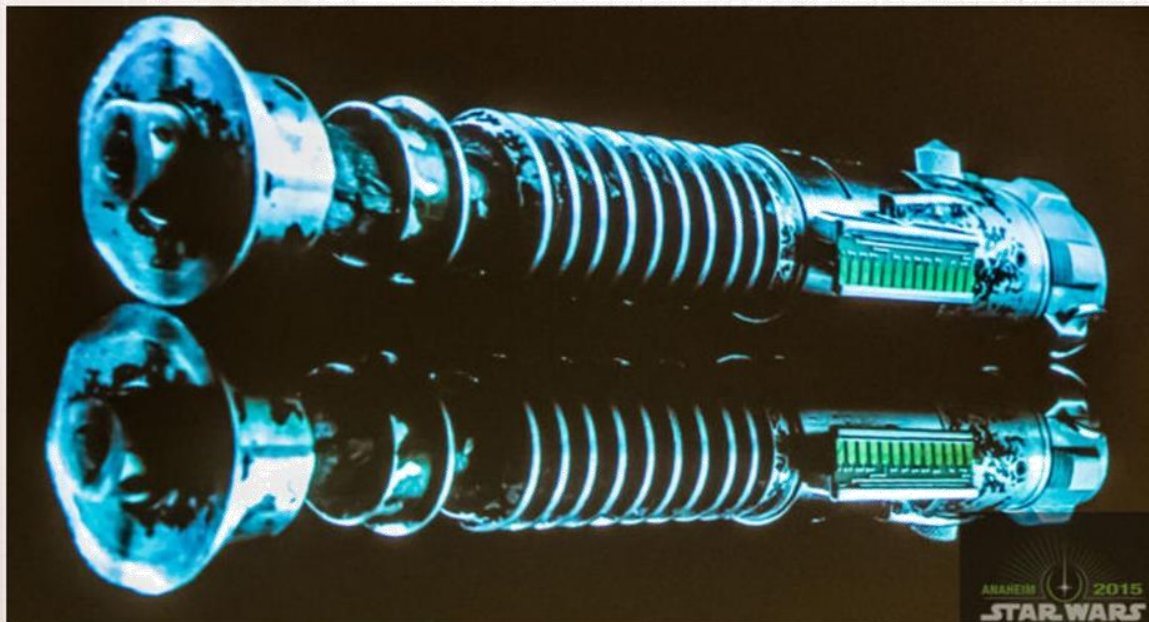
ルークのhero ライトセーバーとして公式には認められていませんが、このセーバーは作品を通してベルトハンガーとして使われ、いくつかのクローズアップショットにも使われています。

V2は事実上オビ=ワンのスタントセーバーの一つと同じブロップです。特に、大きなサイズのクランプレバーを持った個体と同一品です。塗装は風化したようにラフに剥がれており、小さな部品が足されてキャラクター性が増しています。

- グラフレックスクランプに長いレバーが取り付けられ、サイドバーの一つはなくなっています。
- 出所不明のプリント基板がついています。
- 正体不明の“謎の塊(mystery chunk)”と呼ばれる金属片が、元々“新たな希望”でモーターの配線が通っていた穴にねじ込まれています。
- 円錐形のローレット加工されたつまみが追加されています。

スタントブロップだった当初は、エミッター部分がロッドと一体となって回転しましたが、これらの機能は取り除かれ、幾つかの小さなネジで固定され、首(ネック)部分を隠すために撮影用テープが巻かれています。

正式な hero ではないにも関わらず、このセーバーははっきりと何度もスクリーンに登場しています。ルークがスキップの上でセーバーを受け取る時、皇帝がルークのセーバーを手にする時、ルークの隣で玉座の上に置かれている時、ルークがスピーダーバイクを切り落とそうとして立ち上がってセーバーを起動させる時。また、ちゃんとしたミディアムショットのほとんどでルークのベルトに吊り下げられています。



ANAHEIM 2015
STAR WARS

LUKE SKYWALKER'S JEDI LIGHTSABER RETURN OF THE JEDI - STUNT (別名 Shared Stunt or the V3)

オビワンの2本目のスタントセーバーは、“ジェダイの帰還”のルークによって、ダース・ベイダーとの決闘シーンでスタントとして使われるという全く同じ役割を果たしました。V2と同じく改装されましたが、強烈な銅色のネックから見て取れるように、異なる方策に従って再塗装されました。

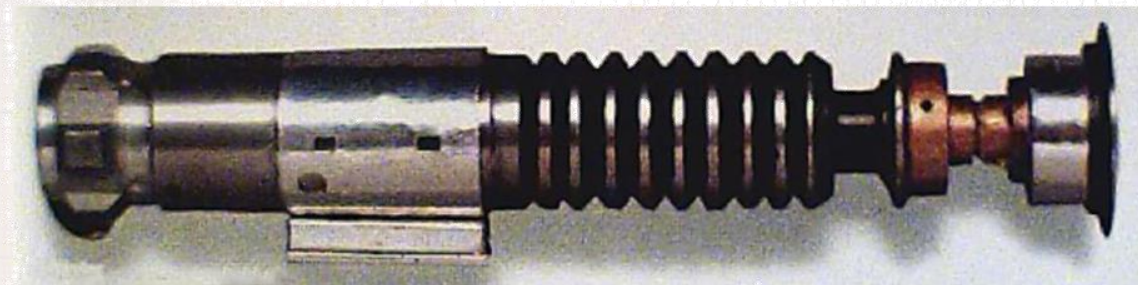
グレネード部分の不均一な形状によって明らかですが、これは2本のオビ=ワンスタントのうち、ラフに作られた方のセーバーです。次のような特徴があります。

固定レバーの付いたグラフレックスクリンプが付いています。表面仕上げを合わせるためか、ホイルテープがクリンプ全体に巻かれています。3つの円形の穴がクリンプボックスの左右と、ボックスの反対側に空いています。ホイルには大きな擦過痕があります。クリンプ自体、オビ=ワンheroや他のグラフレックスセーバーと比較して、上下逆さまになっています。

クリンプカードはプリント基板を模した物になっています。黒いプラスチック板に金色か銅色のホイルテープを貼ったものと思われます。

追記：原点を同じくするこの2本のセーバーの外見がなぜここまで変わってしまったのか、はっきりとしていません。普通に考えると、これは違う場所で働いていた、別のプロップ制作担当によって引き起こされた可能性が高いです。Shared stuntは皇帝の間での決闘でのみ使われました。結果的にV2がhero的な存在になってしまったのは意図的に成されたものではないように見えます。

V3はスペースシャトルに積まれ、宇宙の旅に行ったプロップです。



RETURN OF THE JEDI - STUNT

(別名 Yuma)

セール・バージのシーンでは、ルークは「ユマ」（撮影された砂漠の名前に由来します）とあだ名される別のスタントセーバーを与えられています。複数のバージョンのユマがV2とV3を参考にスクラッチビルドされました。

以下のような特徴があります。

- ネックは色あせてブロンズ色に近くなった銅色に塗られています。かつてオビ=ワンのスタントだったV2にも塗られています。
- 三角形のDリング
- グラフレックスクランプを模したシンプルなコントロールボックスが、2本のネジで取り付けられています。クランプカードとレバーはありません。
- 金属棒のブレードは他のスタントよりも短いです。

ユマスタントは“ジェダイの帰還”を象徴する広告用写真の中で、セールバージの上に立つルークが手にしています。

しかしその他のスタントも同じセールバージのシーン中で使われています。

ルークがバージに飛び乗るカットでセーバーがベルトに装着されているのが見えます。このショットの静止画を見ると、このセーバーはユマに似てはいますが、塗装が異なることがわかります。ネックが銅色ではなく黒くなっており、グレネード部分は摩耗しているように見えます。少し出来の悪いエミッターも合わせて考えると、これはレジン樹脂によるコピーではないかと思われる。この派生品には、ダミーのコントロールボックスとレバー、三角リングもついています。

これらのレジン製スタントが“ジェダイの帰還”のために作られたものなのか、それとも“新たなる希望”から持ち越されたものなのかははっきりしていませんが、ユマの代役を務めているのでここで紹介しています。

ユマのレジン製コピーは、ルーカスフィルムのアーカイブ映像や展示イベントなどでも見ることが出来ました。

レジンコピーの変種がR2-D2がルークにセーバーを射出するシーンで使われ、「R2スタント」とも呼ばれています。



Resin stunt Yuma variant



LUKE SKYWALKER'S JEDI LIGHTSABER

RETURN OF THE JEDI - CLOSE UP

(別名 ISYHCANL, Cave Build, Luke ROTJ, and/or "Hero")

"I See You Have Constructed A New Lightsaber"

これは、この仕様のセーバーが登場する唯一のシーンでベイダーが口にする一節です。ベイダーの手にはルークから取り上げられたこのセーバーがあります。

実はこのシーンは追加撮影されたものであることが、撮影予定表のコピーやセットの写真から確認されています。主要な広告用写真の撮影がカリフォルニアで代役のベイダーによって行われたついでに、後戻りして撮影されたのです。このカットが単なるインサートであることをあなたに気づかれないように…。

これが超クローズアップのカットだったため、このセーバーが本当に「新しく造られた」ライトセーバーだとしたら、それまでいつも身につけていた「スターウォーズらしい見た目」のものではベイダーのセリフに合わないのではないかと、誰かが判断しました。最も考えられるのは、この撮影のためにユマスタントの一つがクリーニングされ、再塗装されたという可能性です。

ユマのように、形状はV2とほとんど同じで、配色はV3を踏襲しています。一切のウェザリングは施されていません。シンプルで特徴のないコントロールボックスもスクラッチで作られ、ブルーの基板カードが取り付けられています。基板カードはV3に似てはいますが、パーの数が多いです。

ダース・ベイダーの“MOM”スタントと同じく、このバージョンは「公式に」ルークのライトセーバーを代表するものとして選ばれ、スターウォーズアーカイブスブックで紹介されました（ここで初めてボタン類の詳細が明らかになりました）。その後展示会などで使われたレジンコピーの原型としても使われましたし、ほとんどのおもちゃや公式レプリカの元となりました。

最終的なルークのセーバーの派生品として知られているものの一つが、“cave build”です。旧三部作のブルーレイに収録されていますが、本編からは削除されたシーンの一つで、ルークが自分のライトセーバーを作り上げる様子が撮影されています。このセーバーは保存されている「ISYHCANL」セーバーと全く同一のものにも見えます。映像中ではアクティブーションボックスのボードがレール間をスライドして開き、内部回路が露出するように作られ、電飾が仕込まれています。

RPFでは両者は同じセーバーに見えるという賛成意見が多いですが、この洞窟シーンの撮影時期によっては、何か他の改修派生品であるかもしれません。（このシーンの背景は貧弱なブルースクリーン合成によるもので、砂漠ではなくスタジオで撮影されたことを暗示しています）

最終的に、このセーバーは“フォースの覚醒”のルークのライトセーバーの製作に影響を与えました。結局作中では使われることも見ることもありませんでしたが、舞台裏の映像にちらりと映っています。Heroを模して作られ、オビ=ワンANHスタイルのエミッターが追加されています。

“最後のジェダイ”に登場する可能性が高いでしょう。



Luke's TFA Behind The Scene lightsaber

REVENGE OF THE SITH

新三部作の最後の作品には、2つの三部作をできる限り多くの方法で繋げる役目がありました。そのような繋ぐの一つに、アナキン／ベイダーのライトセーバーを、オビ＝ワンが“新たな希望”で所有しているライトセーバーの20年前の姿として見せるというものがありました。

物語上では同じであるはずのかつての姿は大きく異なるものでした。

新三部作では激しいライトセーバーでの戦闘が行われることを前提に、旧三部作における自身の姿よりも遥かに細いプロップが作られました。その他の新三部作用セーバーは社内でスクラッチビルドされたので、旧三部作に登場したセーバーたちも例外ではありませんでした。制作過程で現実世界のパーツは使われることは全くありませんでしたが、オリジナルのセーバーは少なくともデザインへの参考にはされました。ほんの少しですが…。

Anakin Skywalker's Lightsaber (別名 the skinnyflex)

不可解な話ですが、アナキンが使い、ANH や ESB でも登場したライトセーバーとしてランチセーバー (16 ページ参照) がデザインの参考にされました。

細身になった本体の他に、クランプカードは独自のデザインになり、Dリングは無く、代わりにベルト取付用のカバーテックノブが柄に取り付けられました。ボタンの色はより金属的で金色に近く、グラスアイは似たような色の埋め込まれたボタンに置き換えられました。

その他少数の派生として、クランプが反転しているものがいくつかのシーンで見受けられます。スタントバージョンや、ショー／コンベンションでの展示バージョンも作られました。

Darth Vader's Lightsaber

ランチセーバーのように、この派生品は旧三部作のどの hero セーバーにも基づいていません。がしかし「パービカン」セーバー (36 ページ参照) を参考にしています。プロモーション資料にしか登場しませんが、“skinny flex”のように細くして磨き上げ、アレンジしたものです。パービカンの greeble (※) 部分は独自のパーツに置き換えられ、現実世界のパーツの流用はありません。カバーテックノブと独自パターンのクランプカードがついています。

Obi-Wan Kenobi's Lightsaber

オビ＝ワンのセーバーも、ANH hero を元にしてはいるものの、他の2本のデザイン傾向に沿っています。独自デザインのクランプカード、アレンジされた greebles、よりピカピカと輝き、細身です。



訳者注※：デススターの表面などに見られる、細かいディテールを追加するパーツをこう呼びます

参考画像集



木型とそこから鋳造されたもの。
共有スタントセーバーの製造初期段階であると思われる。



The Vader MOM Stunt and the V3 in action



R2の衝突。ルーク ESB (バスピン/ホス) がはっきりと見える数少ないシーンの一つ。



The ANH Shared Stunt in ESB
rehearsal



RPF 創設者 Brandon Alinger により
Mark Hamill は 34 年ぶりに V2 との再会を果たした



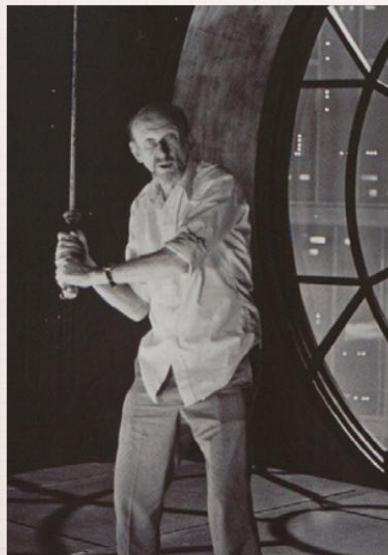
ISYHCANL インサート撮影時



ベイダーは Al Williamson の失敗に影響されている (冗談です (汗))
(訳者注: スターウォーズのコミックでの描き間違いのことです)



反乱同盟軍のエキストラが何かの工具としてスタントを使っている



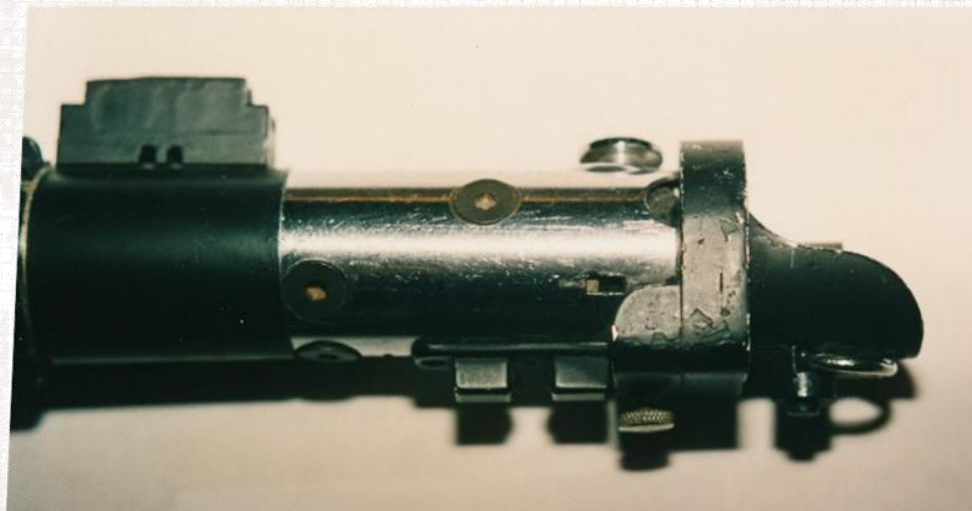
ESBで shared stunt を手に
殺陣指導をするアーヴィン・カーシュナー



ロジャー・クリスチャンと彼の創造物との再会



ルーク ANH はグラスアイの形状から Folmer タイプである可能性をこの画像が示唆している



鋼鉄のような輝きを放つ、未だに謎の多い作品 MOM stunt



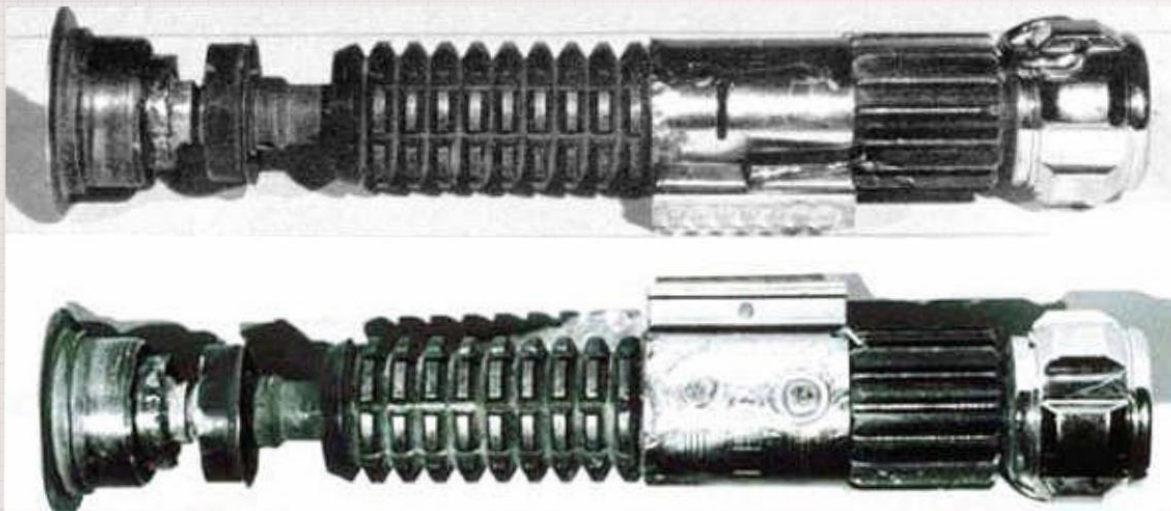
R2D2 とユマを元にしたレジン製スタント



shared stunt を手にリハーサル中の
ESB ベイダーのスタント役 (Bob Anderson)



MOM で展示された ISYHCANL のレジン製コピー



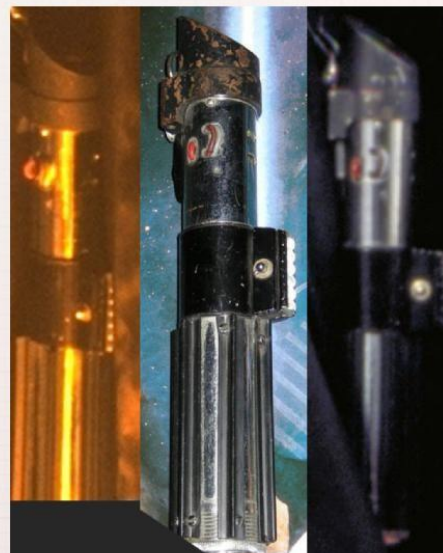
数少ないオビ=ワン ANH hero の写真の一つ、スター・ウォーズ・クロニクルより



多くのパーツの原料——コバルドフラッシュ



ESBのリハーサル。マーク・ハミルはESB スタントを、デビッド・ブラウズはオビ ANH 共有スタントを持っている



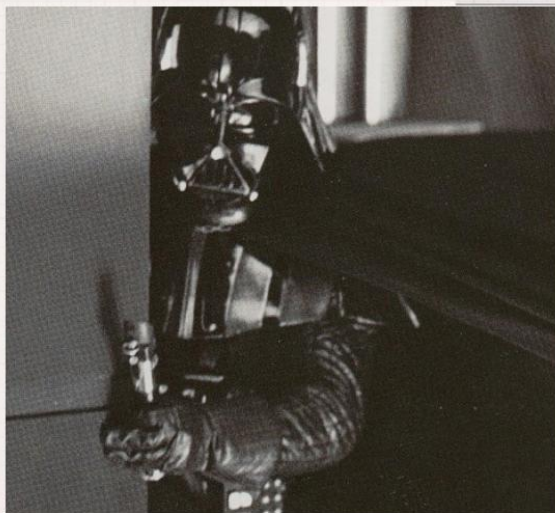
ベイダー=ESB の劇中スクリーンショットと展示品との比較



リベットかネジか!? FIGHT!!!!



数分後、shared stunt はとてつもない昇格をします



The Darth Vader ESB hero.



the hand-severed stunt saber に差し替えられる直前の
The Vader stunt/"hero"

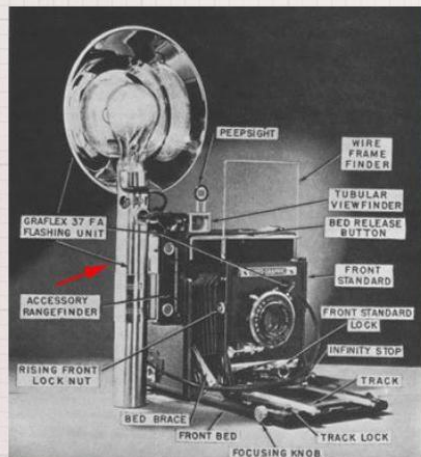


TFA の予告より。我々がグラフレックスの復活を目にした最
初の瞬間です。…しかし違った…またしても…。



グラフレックスを改修して柔らかい素材のカバーをつけた
TFA スタントセイバーをダイジー・リドリーが持っています。

付録 -- REAL WORLD PART SOURCES



グラフレックスの最初の人生…



…そして MPP の最初の人生。



オビ=ワンはホットだったのかコールドだったのか？



オビ=ワンのエミッターと IG-88 の頭は古いジェットエンジンの中に隠れています。このライトセーバーのデザインが偶然の幸運に恵まれたことを証明しています。



The Exactra 19 and 20. Bubbles!



ライフルロッドグレネード。全くもって怪しい兵器などではない。イエイエイエ！！



T-トラックが見つかったらここに入ります！



オビ=ワンの“ブースター／ギア”の実家。航空機用機関銃の上

付録 -- GUIDE TO CLAMP CARDS

映像中で確認することはほぼ不可能ですが、いくつかのESB時代のライトセーバーのクランプには、電子回路のエッジコネクタが使われています。マザーボードのスロットに差し込むプリント基板の一部です。

多くの人がHP-44バスタイプのコネクタだと言いますが、決して100%確認されたものではありません。プリント基板はしばしばよく似ており、様々な出どころから来ています。映画で使われたものと一致するように見えるカードが見つかったら、他の特徴についても検証することが出来ます。しかし適合するあらゆるパーツに派生品が存在します。

最も一般的な要素を列挙します：

- 当然ですが、薄い黄色や灰色に近いグリーンのものがよく見られます。
- 太い金色の帯部分は、時に角が丸まっていたり、時には矩形をしています。
- 帯部分を延長するように細い導線が伸びています。
- 帯部分は一般的には金色や銅色で、導線部分は錫メッキです。摩耗の程度に応じて、メッキ部分は金色に見えたり銀色に見えたりします。

映像を通して確認されたことは多くはありませんが、他に証明されている点があります。

- ランチセーバーの帯部分は四角で、細い銀の導線です。これは多くの広告素材で、ベスピンの装備に身を包んだルークとともに確認され、最も人気のある選択肢です。
- ある画像でのグラフィックスは太い金の導線がついていたそうです。(私は資料を探しましたが、見たことはありません)
- ベイダー“パービカン”には細い導線が使われていますが、エミッターに近い最後の1本は太く、おそらく両方が使われていると思われます(36ページ参照)

実質“シュレーディングのクランプカード”状態となっていると言えます。どんな選択も正解で、不正解を知る手段はありません。現実世界のパーツは選びきれないほど多彩です、

他のいくつかのセーバーは、起源の異なる基盤を使っています。

- ベイダーANH/V2にはExactra 計算機の基盤が使われていますが、正確なモデルはわかりません。19あるいは20のものだと思われるが、バージョン違いの基盤が見つかっています。
- ベイダーESB/ROTJ hero (そしておそらくANH silver barsにも)にもExactra 基盤が使われており、青と金色がバブルレンズの下に見えます。
- ルークV2の基盤は謎のままです。
- TFAの制作チームはgoogleで「HP-44 PCB」を検索すると出て来るものを元にスクラッチ制作しました。
- Exactraの基盤は色やデザインも様々で、バブルレンズ自体も透明度や「窓」のサイズがまちまちなので、何が劇中で使われたかを特定するのは難しいです。

Vader ANH/ V2
“Black Bars”



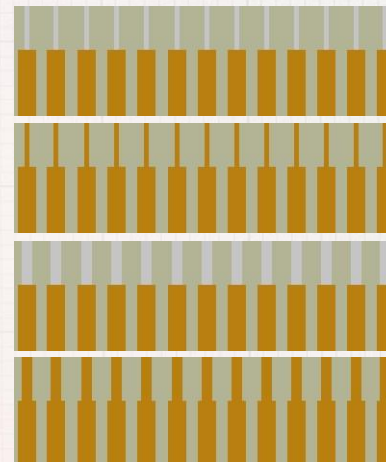
Vader ESB/ROTJ
HERO



ESB / Ranch Saber



ESB 派生



ROTJ / ISYHCANL



ROTJ / V3



ROTJ / V2



TFA



あとがき

情報は変動します。新しい証拠が出ると事実は変わります。これを書き終えようとしたまさにその時、新しいV2の映像が公開されました。

今のところ、これは旧三部作のライトセーバーの情報を取り扱ったものとしては最新のものです。

しかしまだ謎は残っています——オビ=ワンheroにはどんな種類のトランジスターが使われたのか？ ベイダーMOMのコントロールボックスはなんなのか？

ある時プロップ担当者がまったく見分けのつかないようなコピーをなんとか作り上げちゃって、実はESBには十数本ものheroセーバーがあったという事実を、今は誰も知らないだけだとしたら？

もしかして！

新しい情報がコミュニティに届いたら、このガイドを最新に更新するよう最善を尽くします。読んでくれてありがとう！

Seth Sherwood

日本語翻訳者追記

基本的に Seth が書いたものを尊重し、内容の意味する所は変更しないことを心がけています。意識も最小限にとどめています。ライトセーバー研究の中心は英語圏で、どうしても元の英単語にだけもっているセーバー的ニュアンス、というようなものがありますので、何もかもを翻訳するということもしていません。むしろ専門用語を覚えたほうが今後おトクな機会も増えると思いますので、わからないことは検索して調べるなどしてみてください。Seth と同じく、内容と表現の更新に努めてまいります。

Thanks Seth, for giving permission to transrate this bible for all Japanese lightsaber fans.
And of course, Thanks all RPF members.

2017/02/09
びろいし

改訂履歴

このバイブルの全ての版はここに記載します。

Version .5: January 2017

- Beta copy

Version 1: January 2017

- typos and grammatical errors revised

- additional V2 images added

- shared stunt / V3 information revised

- Luke ROTJ "hero" Archives image added

Version 2: February 2017

- typos and grammatical errors revised

- V2 and V3 info updated and revised

- PCB card details updated and revised

- Obi-Wan hero page updated and revised

- DV ESB Hero page updated and revised

- Luke ESB stunt page updated and revised

- new gallery images added

- - dedicated Revenge of the Sith page added